

里
 草
 足
 孫
 八
 犬
 傳
 四

^ 13
 3704
 4

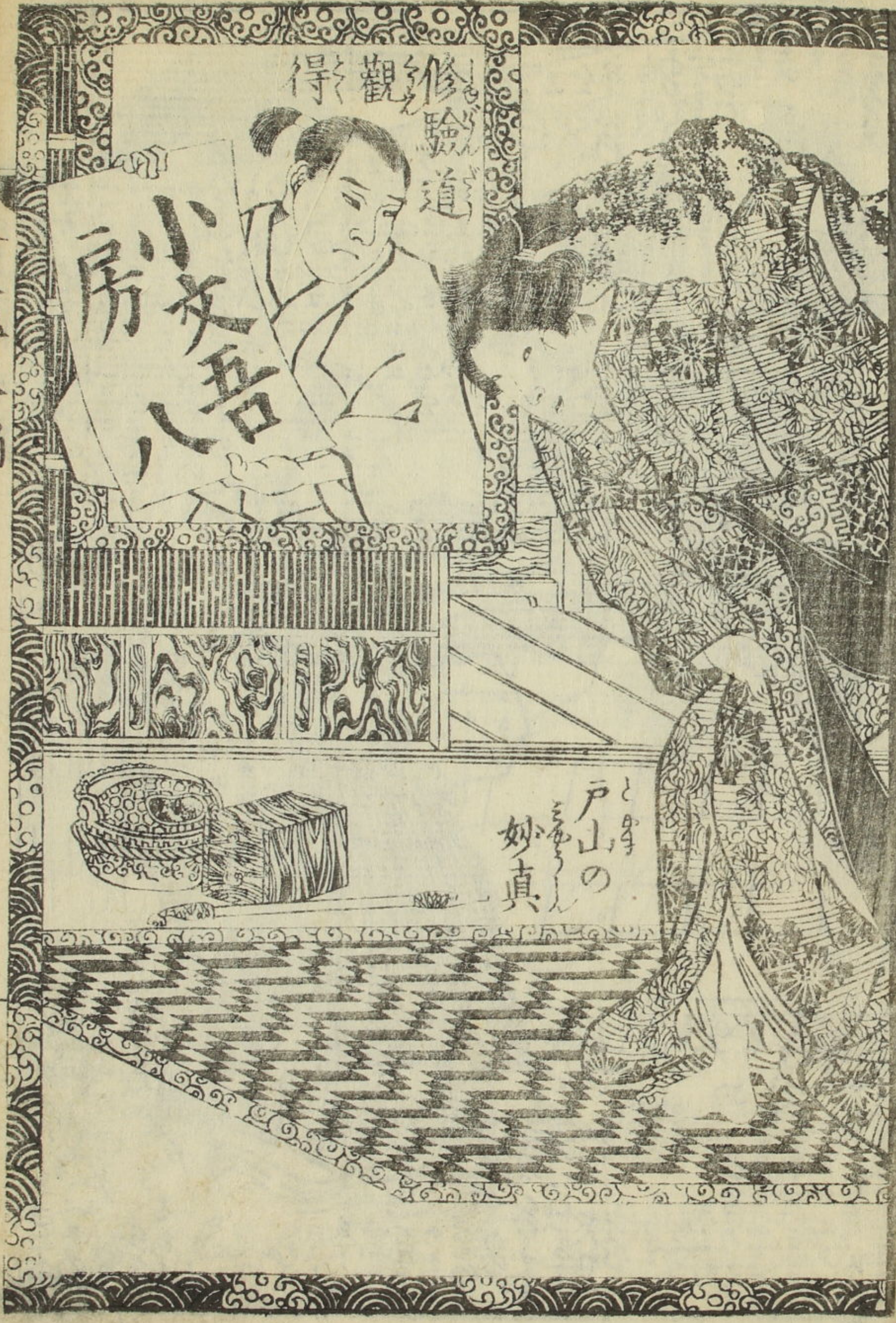


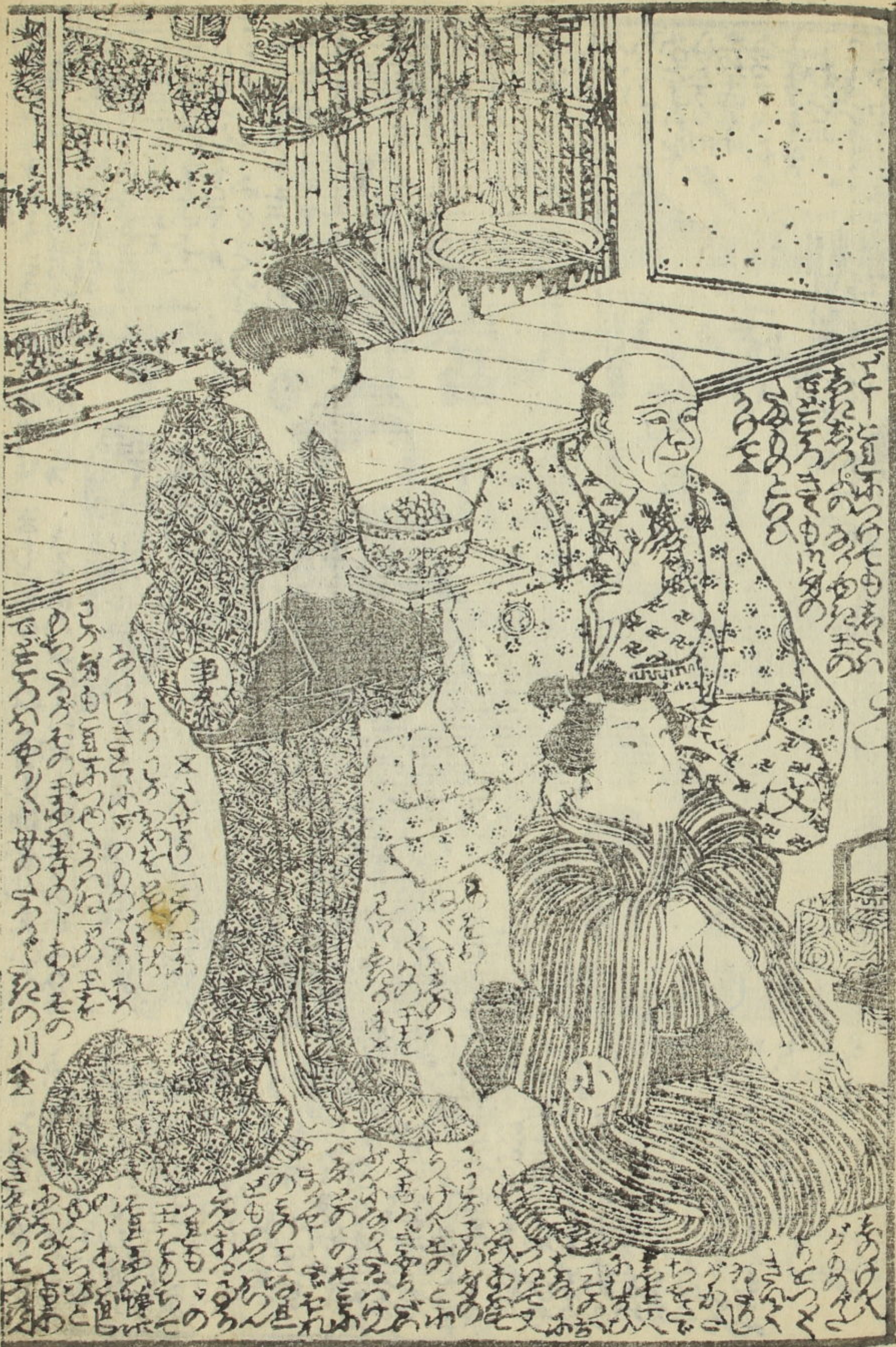
門 へ 13
號 3704
卷 4

嘉永三歲庚戌春刺

大言吐を世俗小校尾を吹といひつらう其理もあらず
那校尾貝と云ふの海小あつて其声発せむその肉を去り殼と
ぬ死物なりて吹くことなり其声数丁の外を聞ゆ啞のとあり実と
のほく且此螺小似る所の附會して斯言ふん復その母大
のほく牌大小説よまざるあり其ありをよき千里小鳴る余が這書の
原傳かどののやま毛海軍の大將軍が余細螺の才をあげれど第七
編の長紙の裏に太き校尾が重せり中二序言を出せりかの
大先達念王坊が螺を因みを表すめかろ又是食言の看板は偽
りもたを見せんが為あり其四方の看官の憂顧をさぬ
るを校尾の中ある序言の地海り灰吹の中は蛇がうんぬ

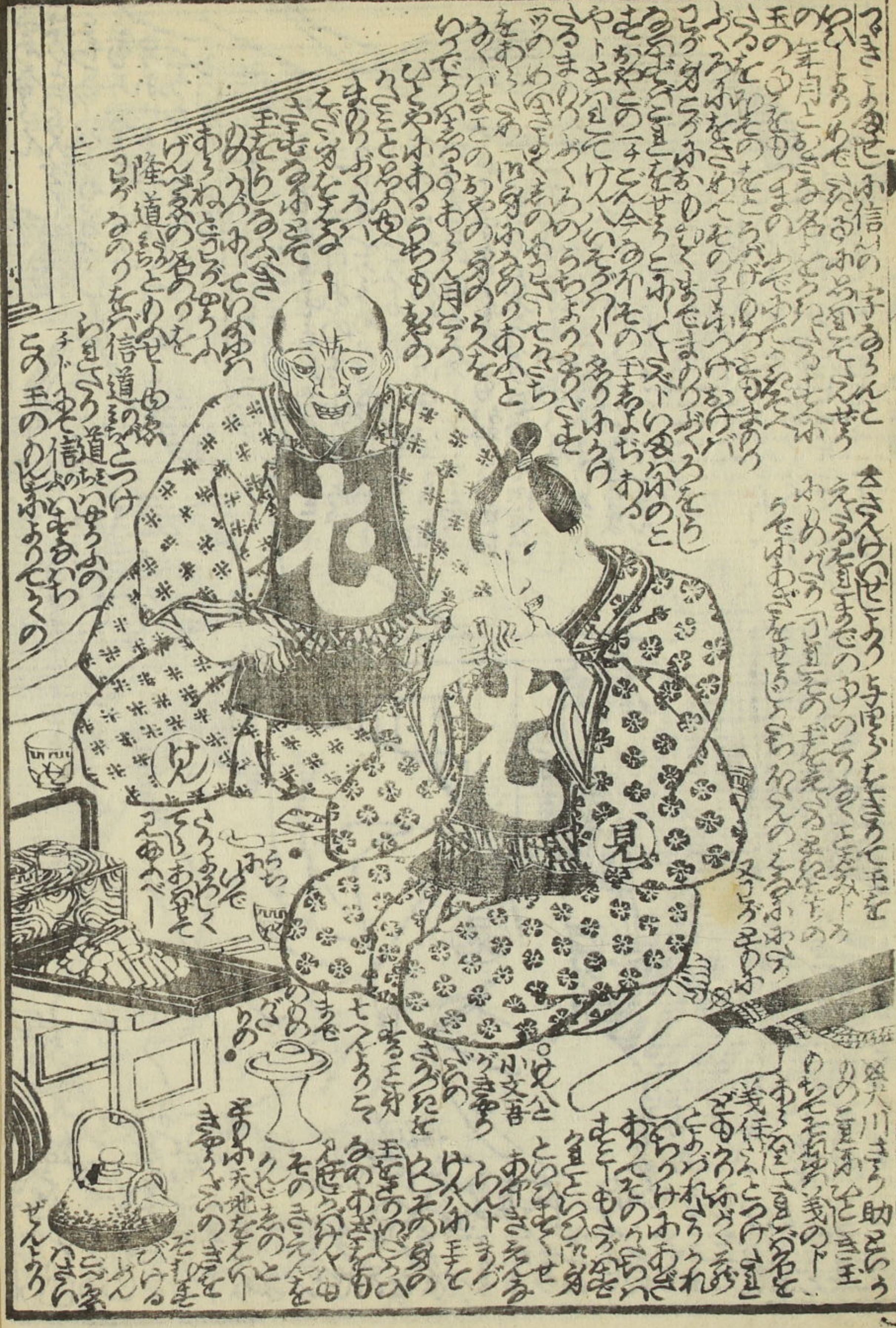
三傳編





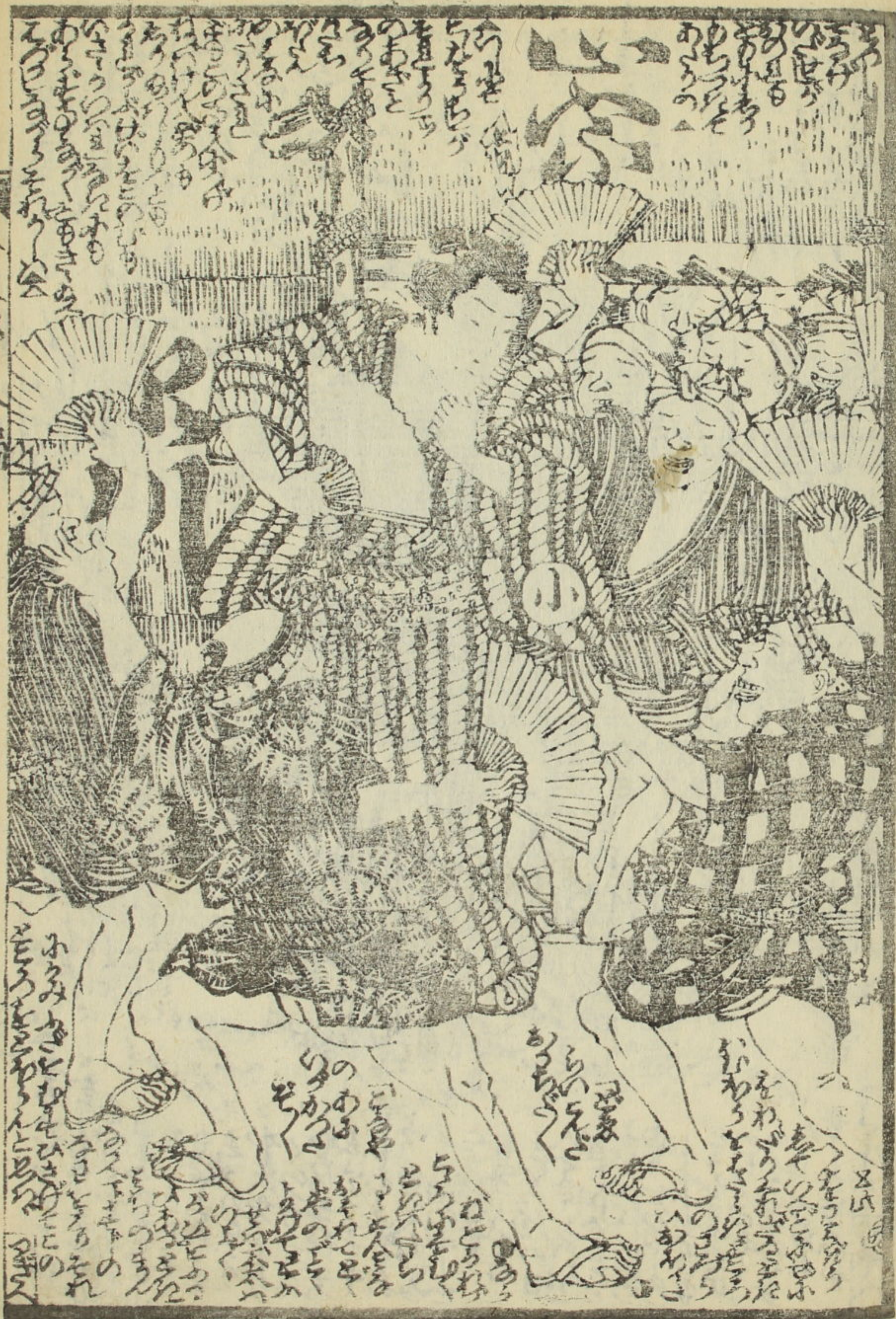
八十八

日

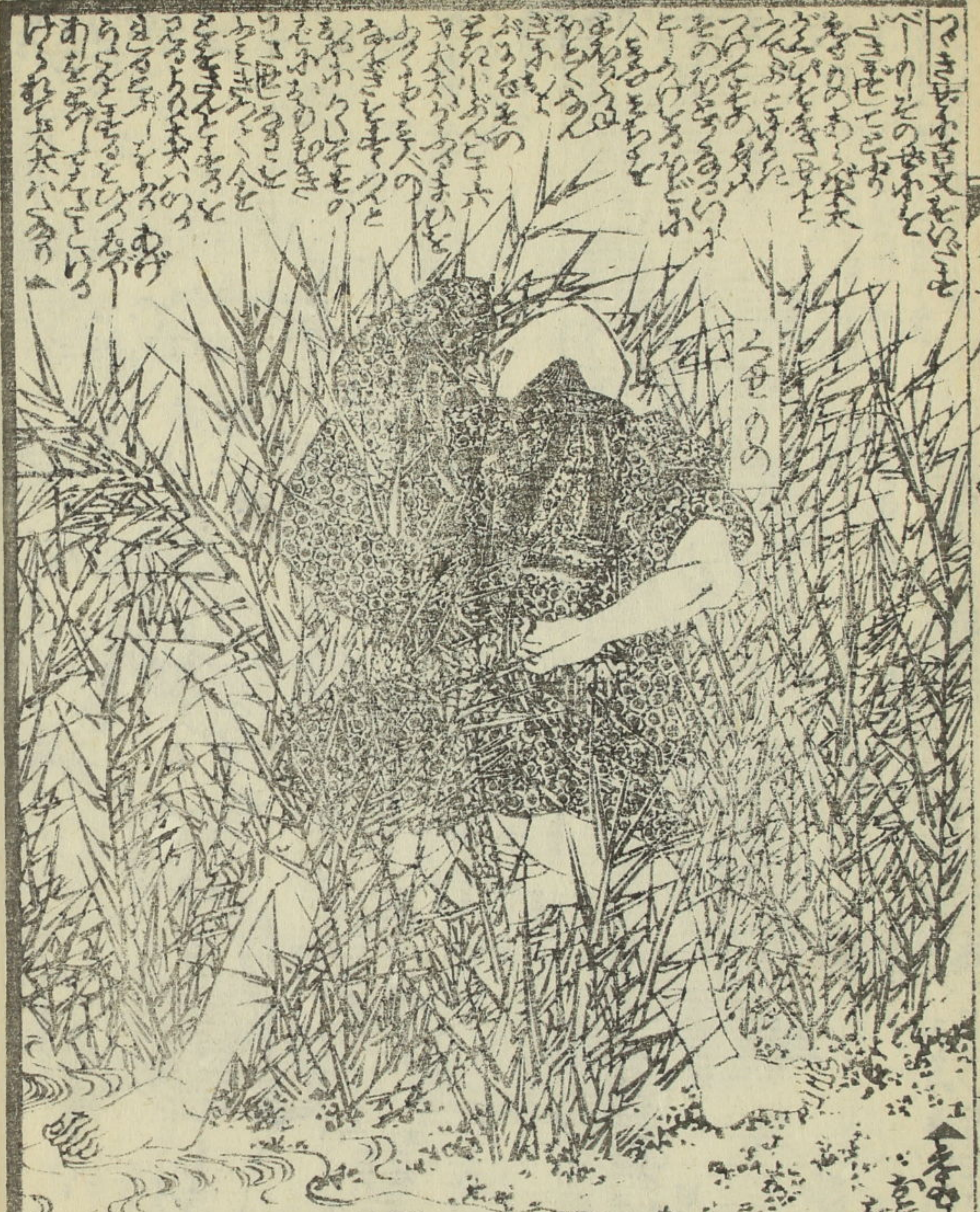


八十八

日



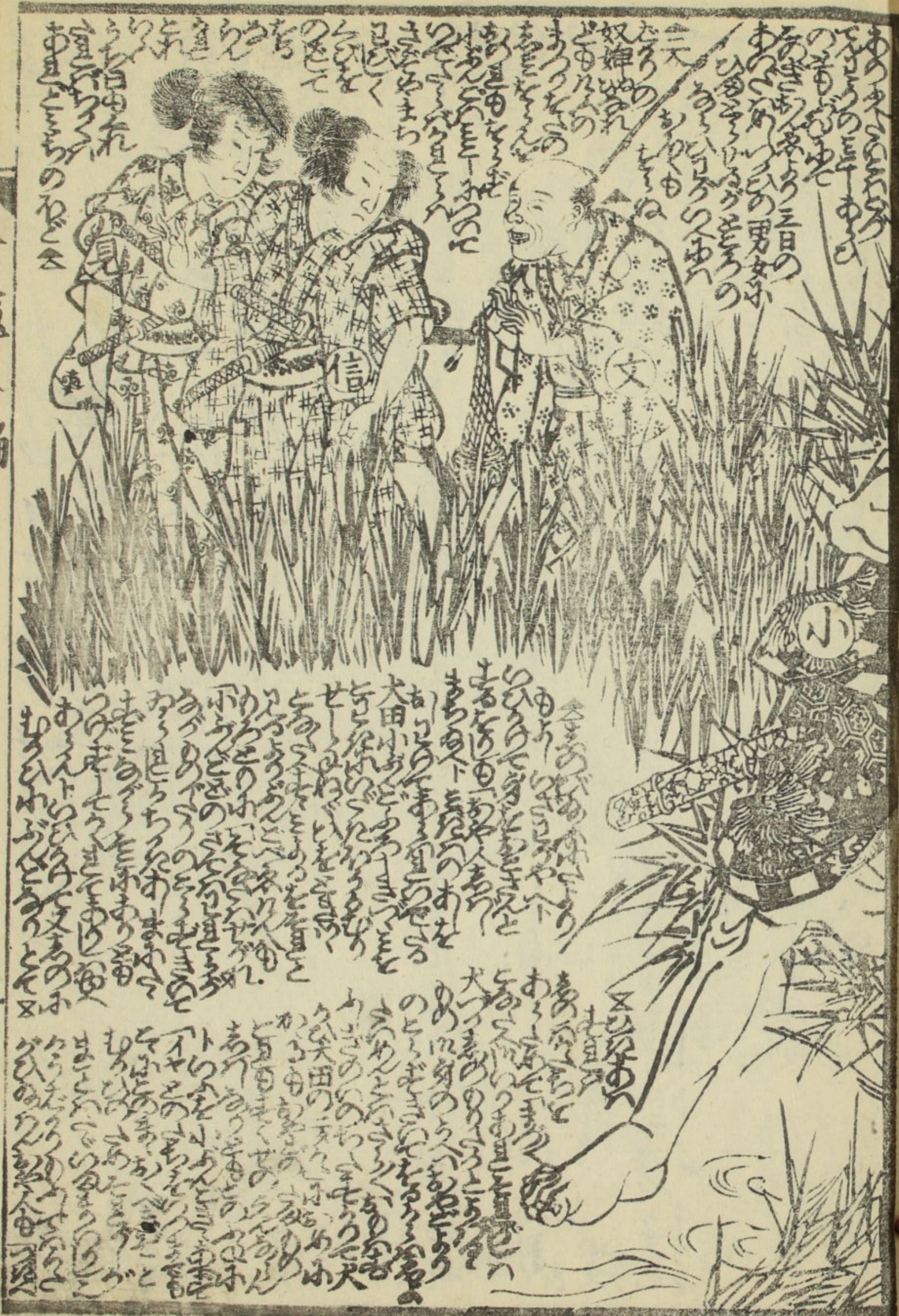
小文五
大徳の
けを
通る
七人の
まは
りて



下りその
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて

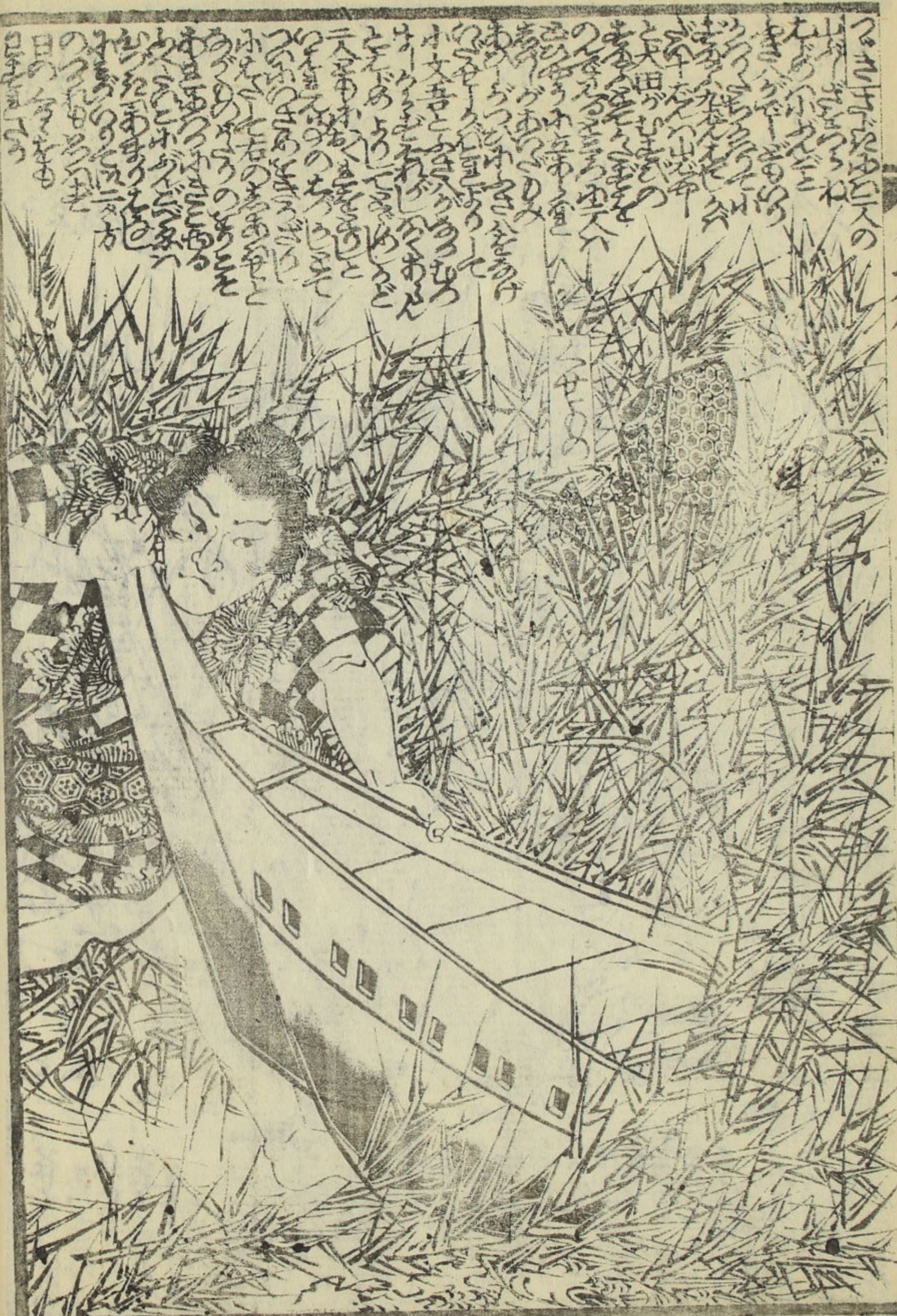


その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて
その
まはりて

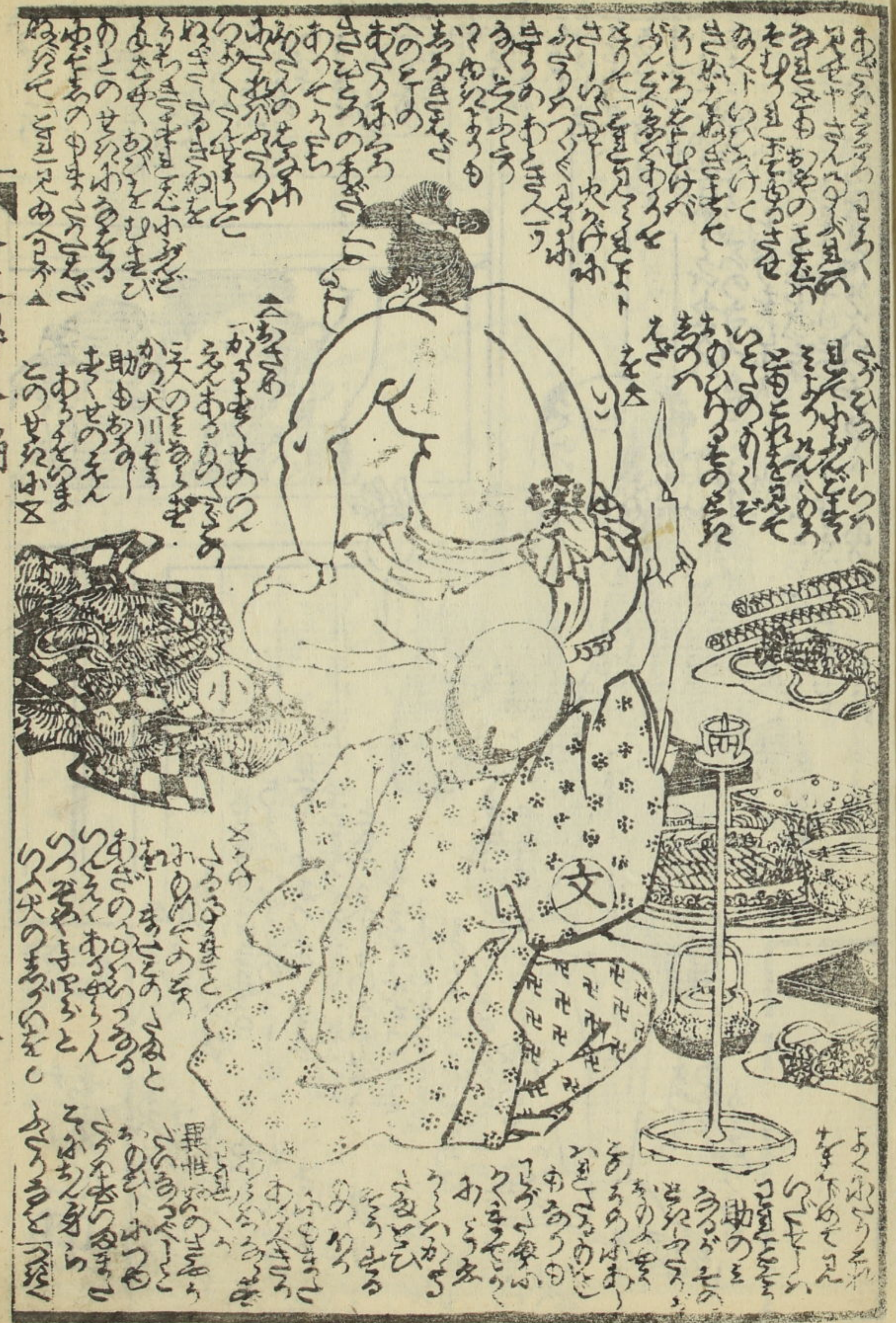


あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...

あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...



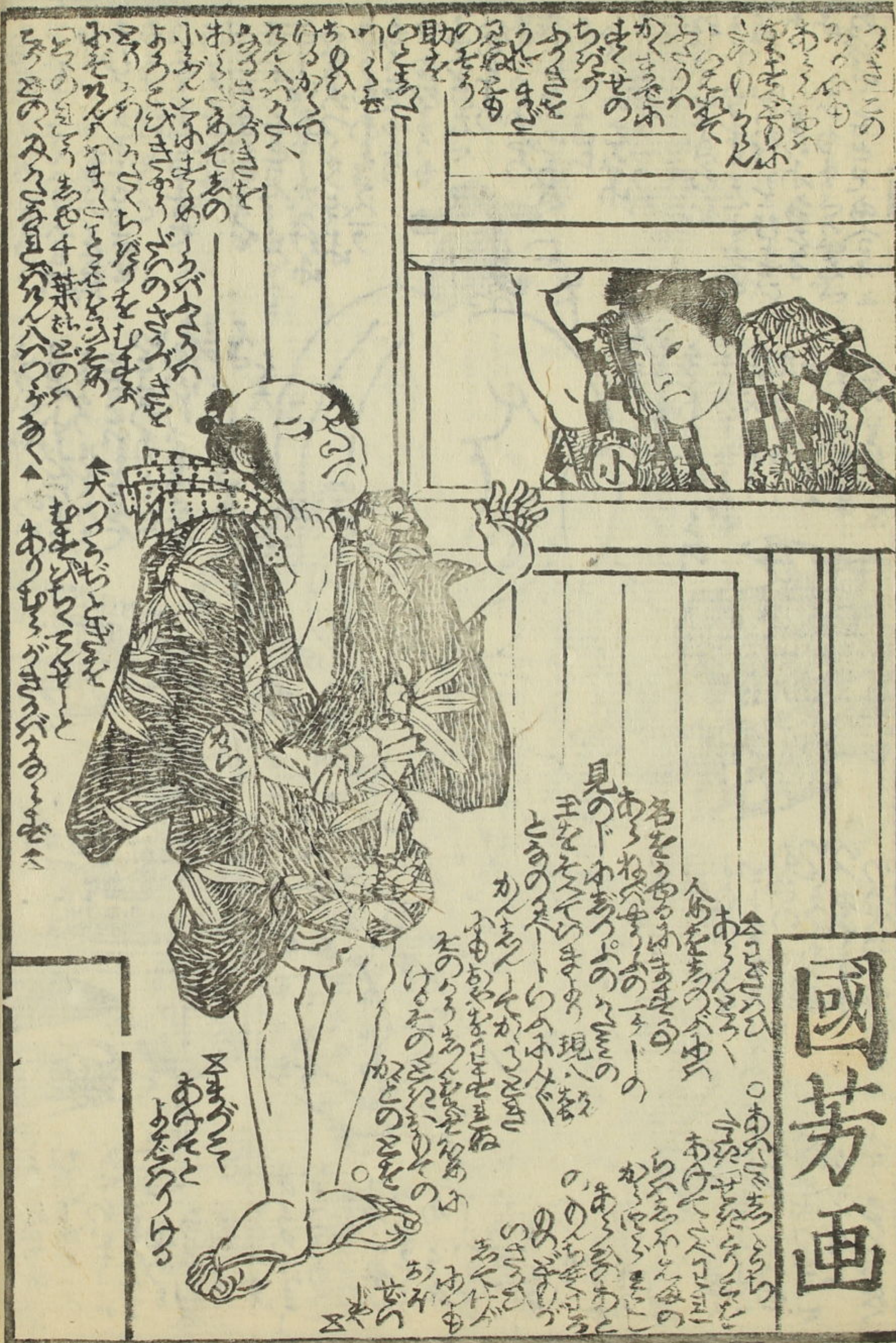
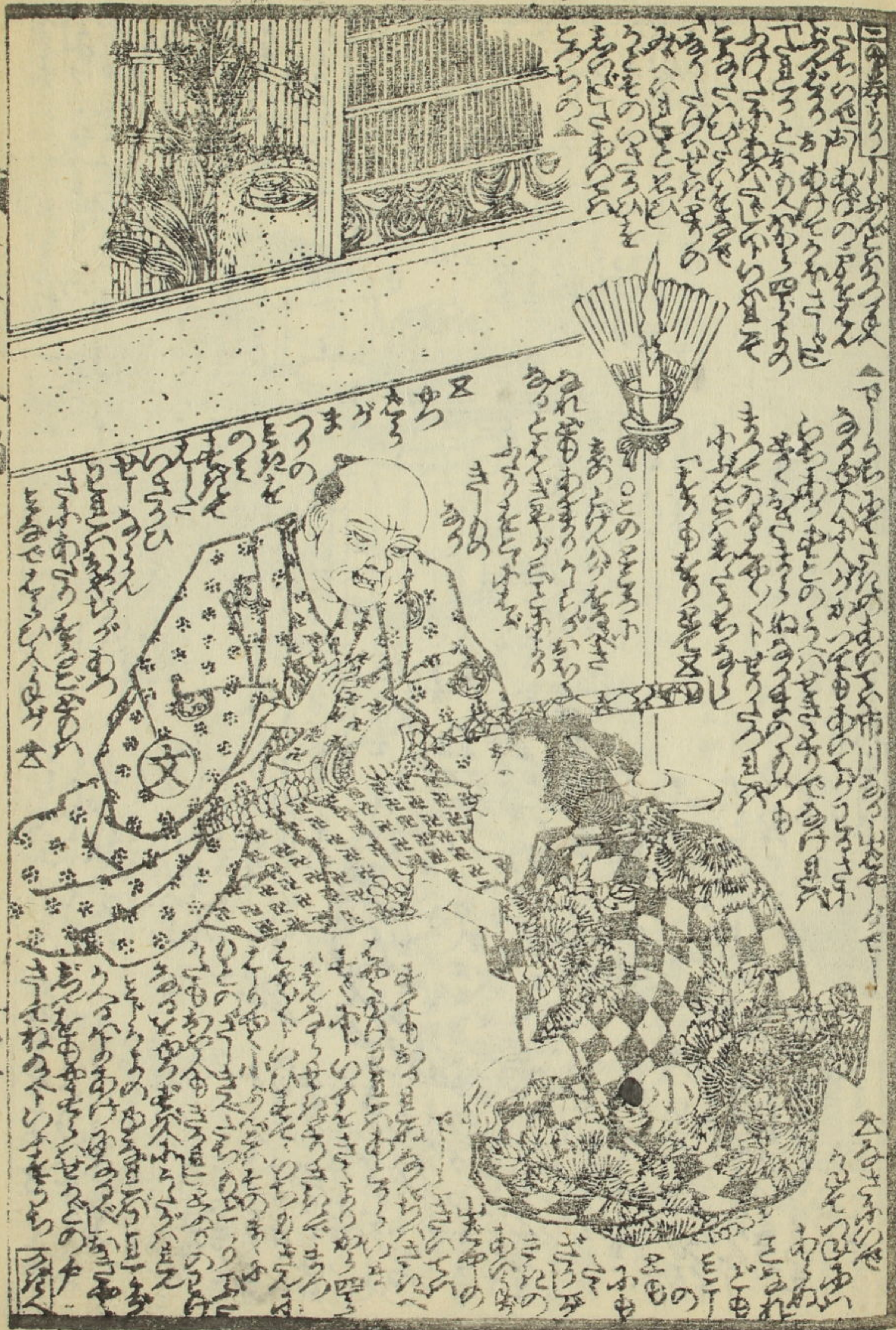
あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...
 あつちの草むら...
 のまの草むら...



六傳ノ編

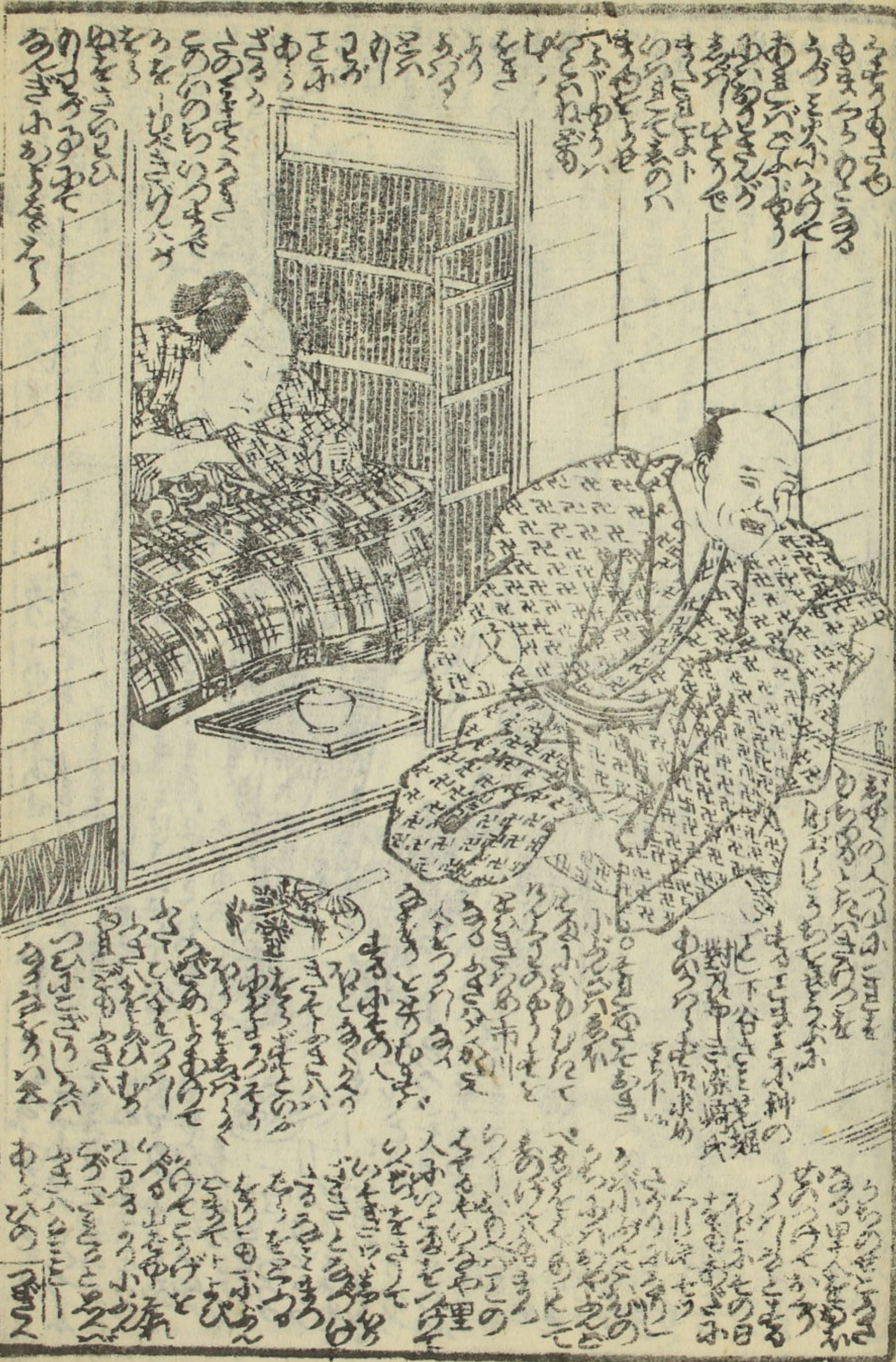


六傳ノ編



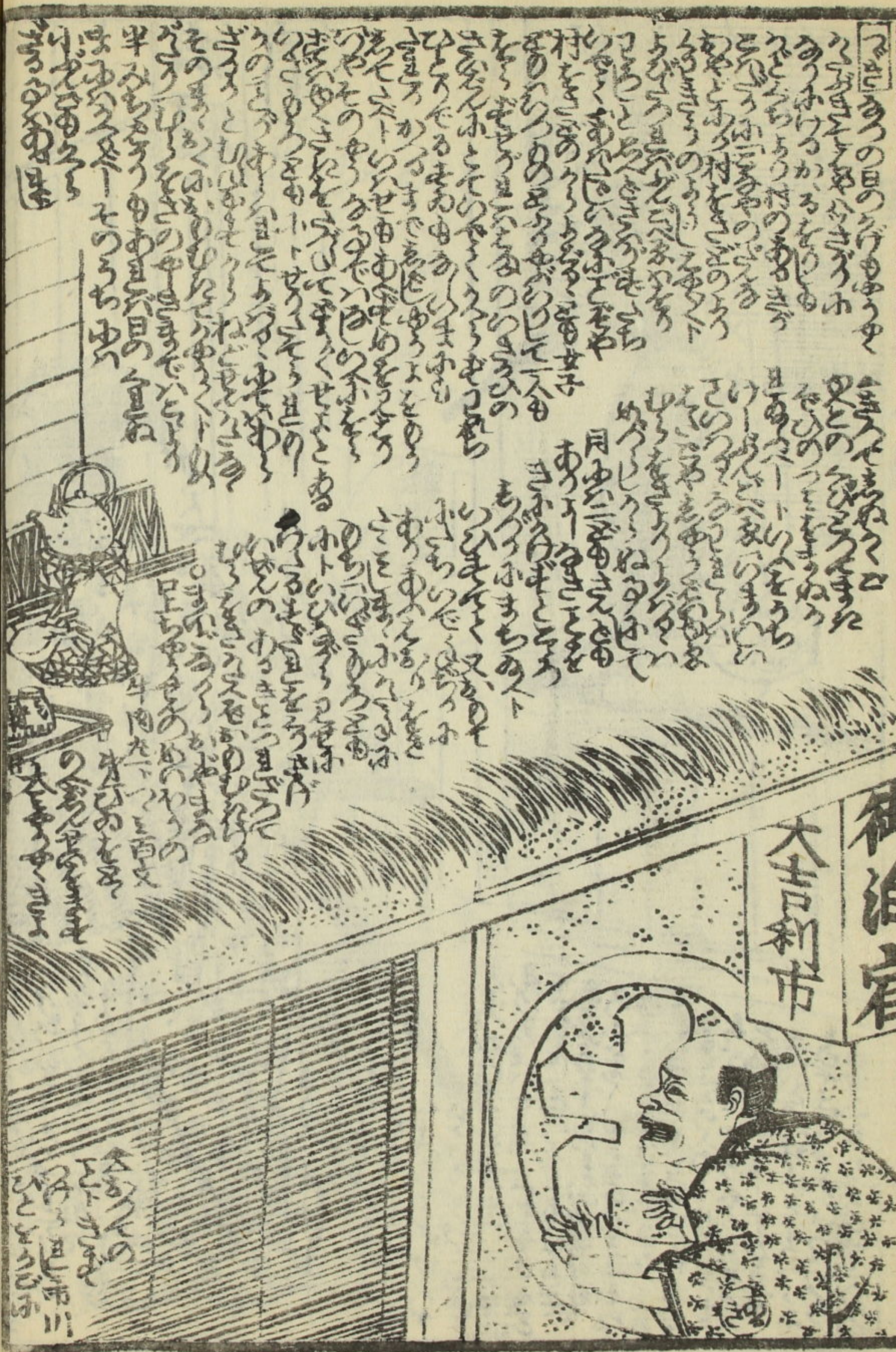
ハサバハ...

國芳画



ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの

あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの

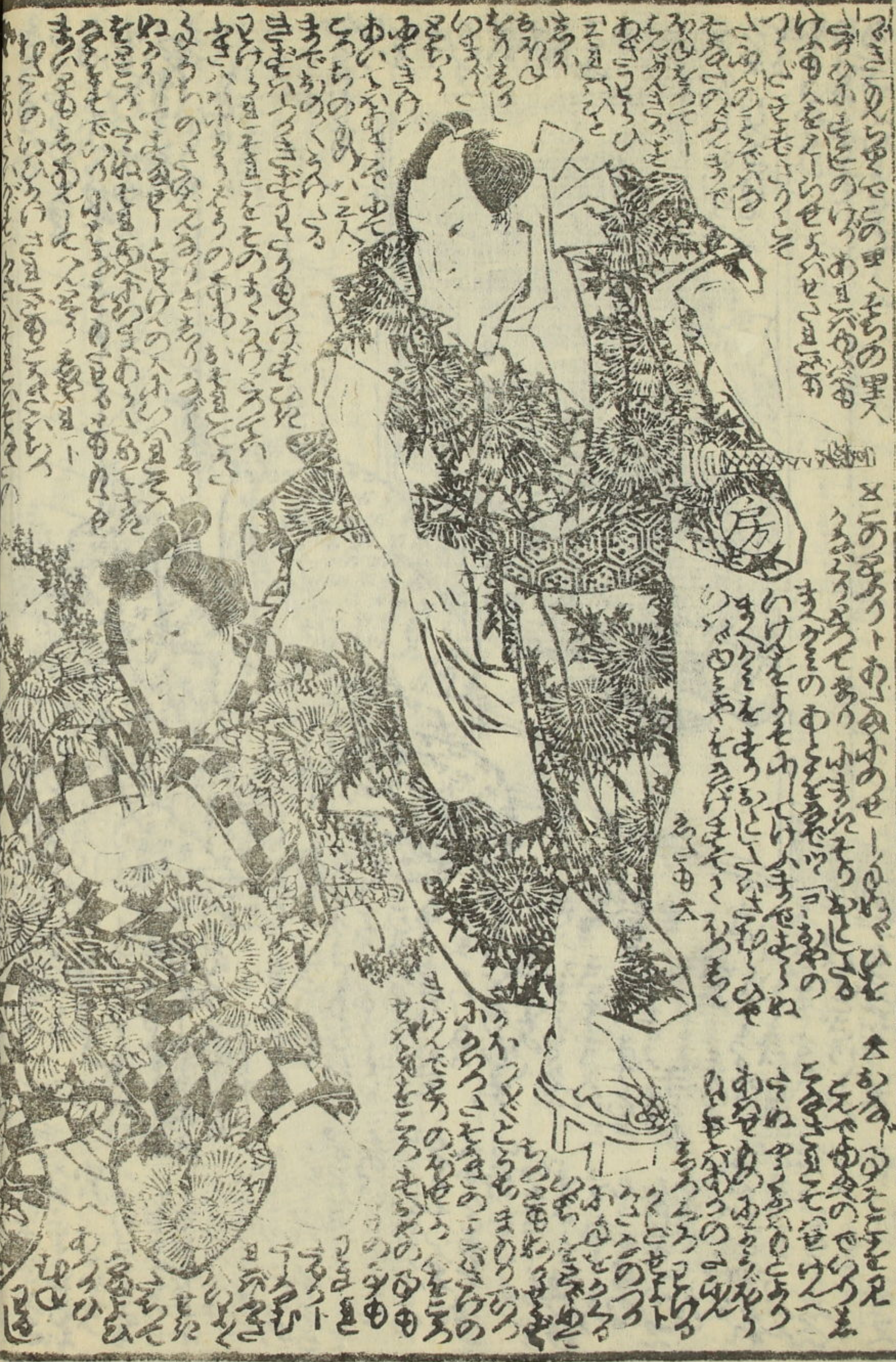


あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの

あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの

あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの
なつなつの
あきあきの
ゆきゆきの
うきうきの
あきあきの

神田宿
大吉市

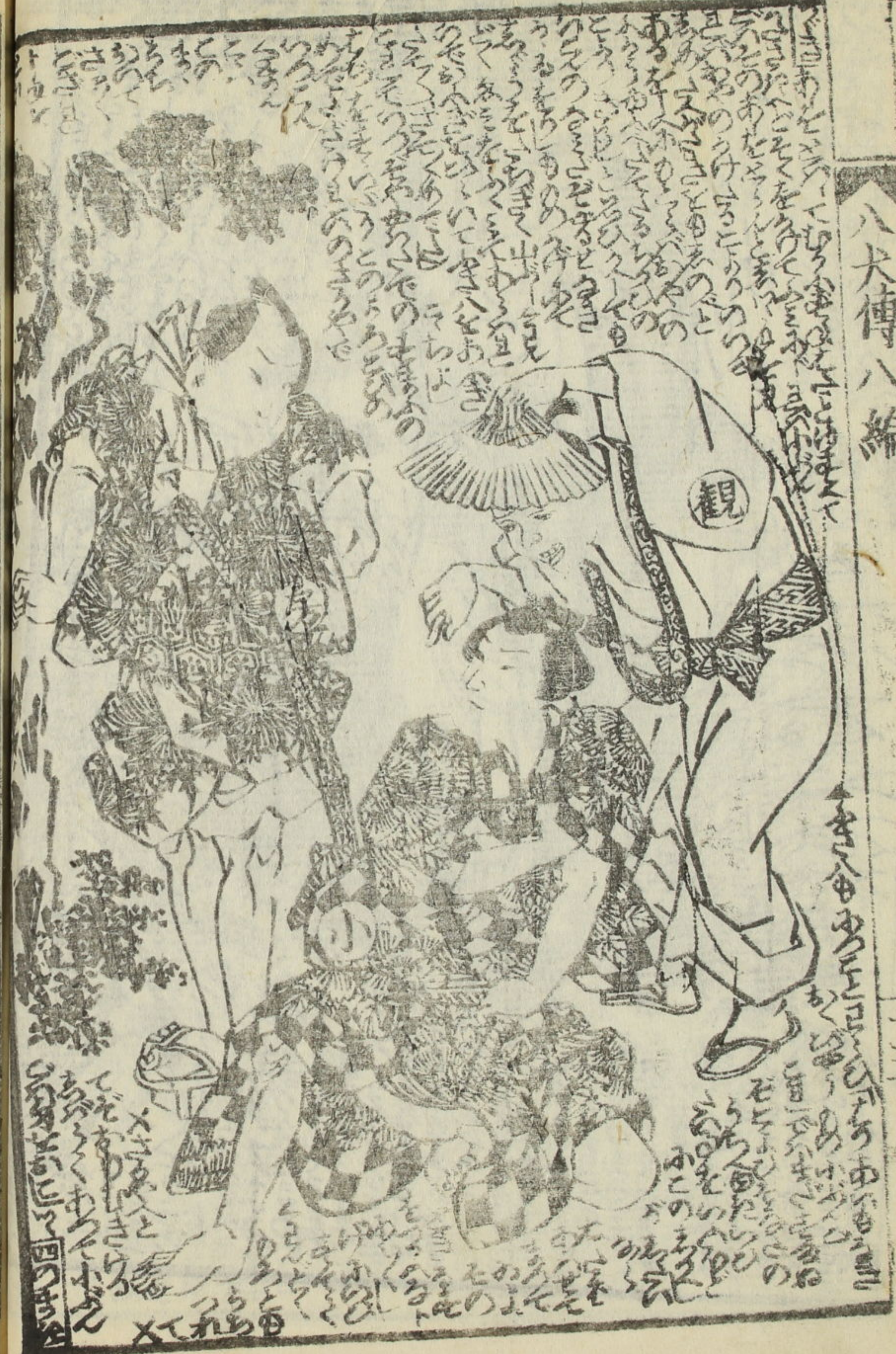




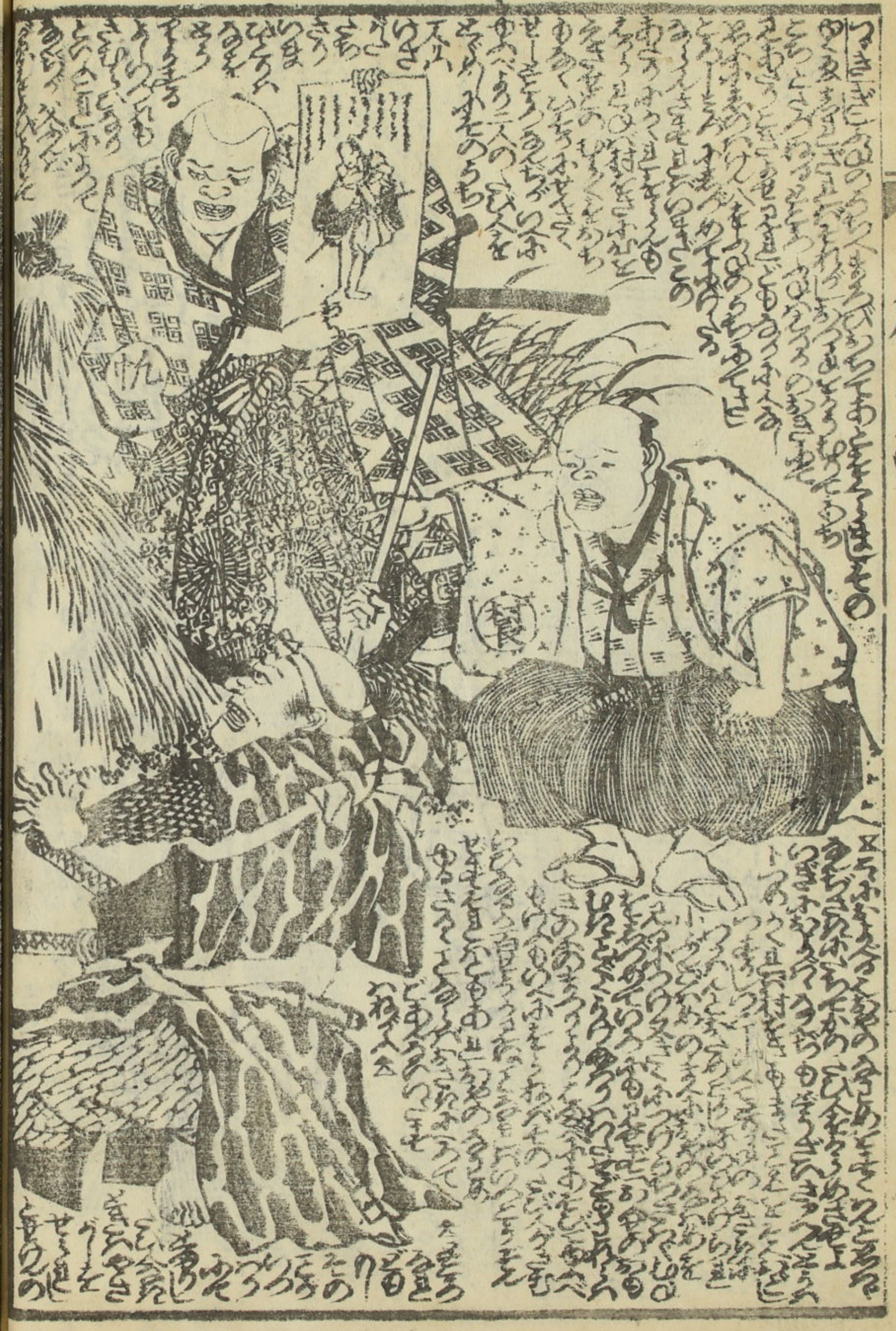
八十八の...

八十八

八犬傳八編



八十八



いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

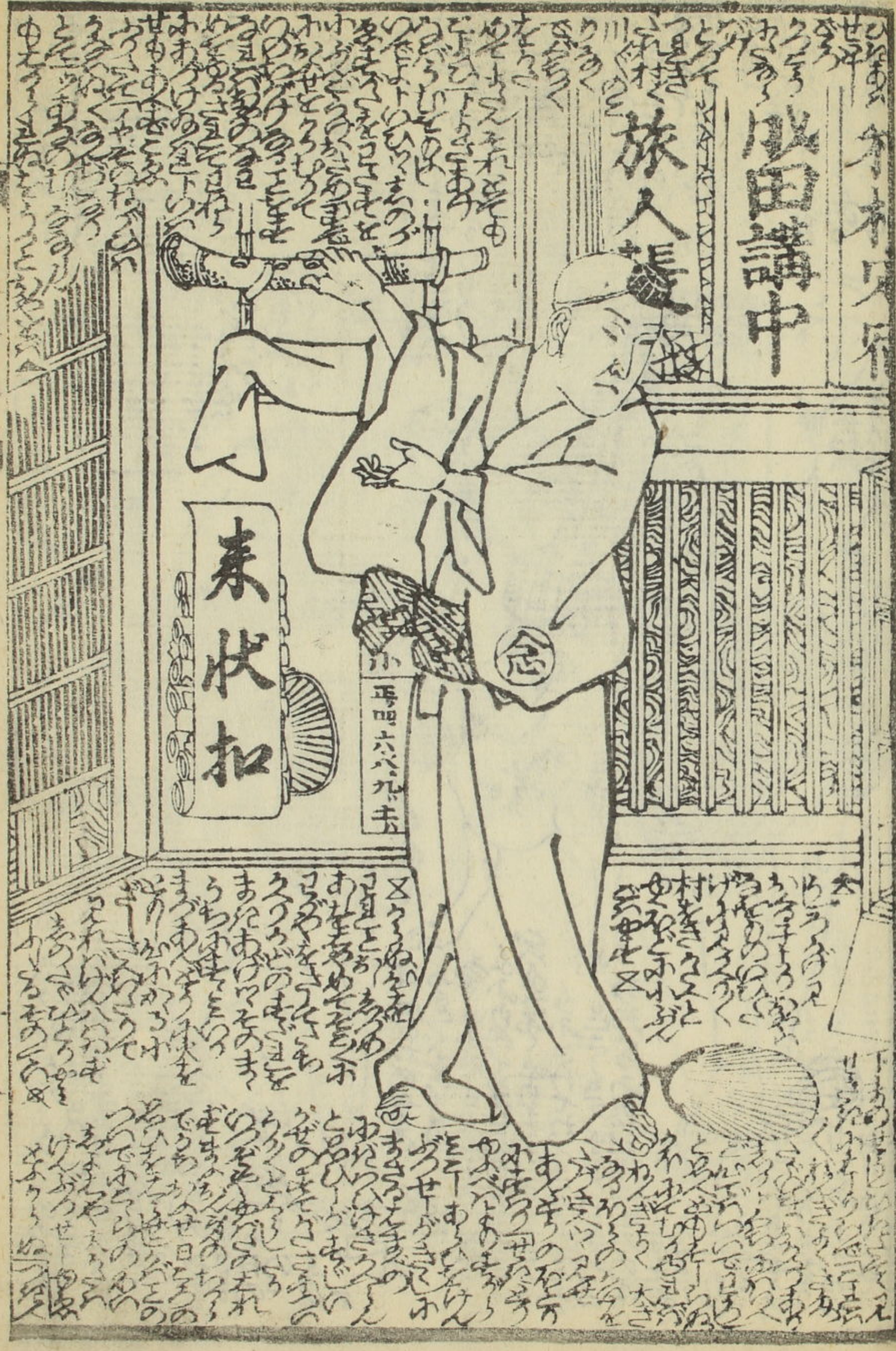
いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未



いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

いふは... 八代傳八巻... 八智定宿... 留講中... 旅人護... 来状扣... 馬四六八九未

夫長きりの短き成る大なるむと兼ぬまのうつら長き
 世小長等の橋の長うと君う齡ひと長濱の鶴の千歳にたふ
 るるど長き成るると詞めて山鳥の尾の長きささる南極星の
 天窓の長き吸付葎の長烟管禿の返辞と掘竹上買是等
 いろの長き成るとも別て女中の長裾ひいて駝下駄の踵
 をうち角前髪の長振袖はるびいて柳の風次女をうらへ小
 潮来の字ありふしさちりさんと長文句ものづれ當世小おひと
 の松長よ采へや。是も余沢と僕が長編み筆を採り短き
 才小延まはれ。鼻の下谷の草菴ふ春の長き日あけく綴り
 出まも看官の長き咲ひよそまんとあのみ



一勇齋國芳画

此の
 馬の
 名は
 金交
 浄書



嘉永二酉仲春稿成
 同 三戌孟春新鐫

八犬傳八巻

三傳乙編



照文
十一郎
登崎

伏姫



伏姫
神靈
大江親
仁衛兵



大傳九編

お下座

日

お下座

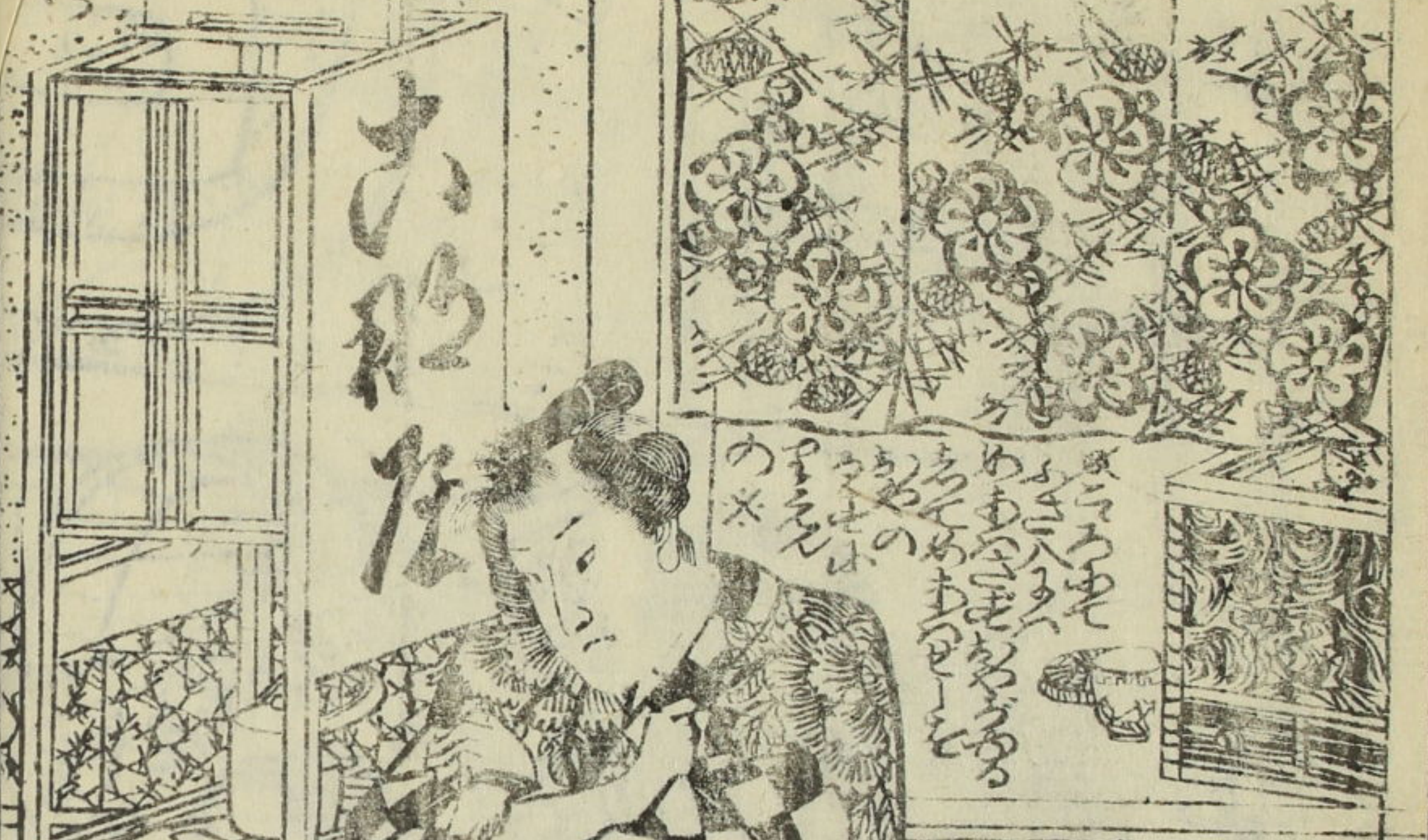
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...



あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...

あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...

あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...



あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...

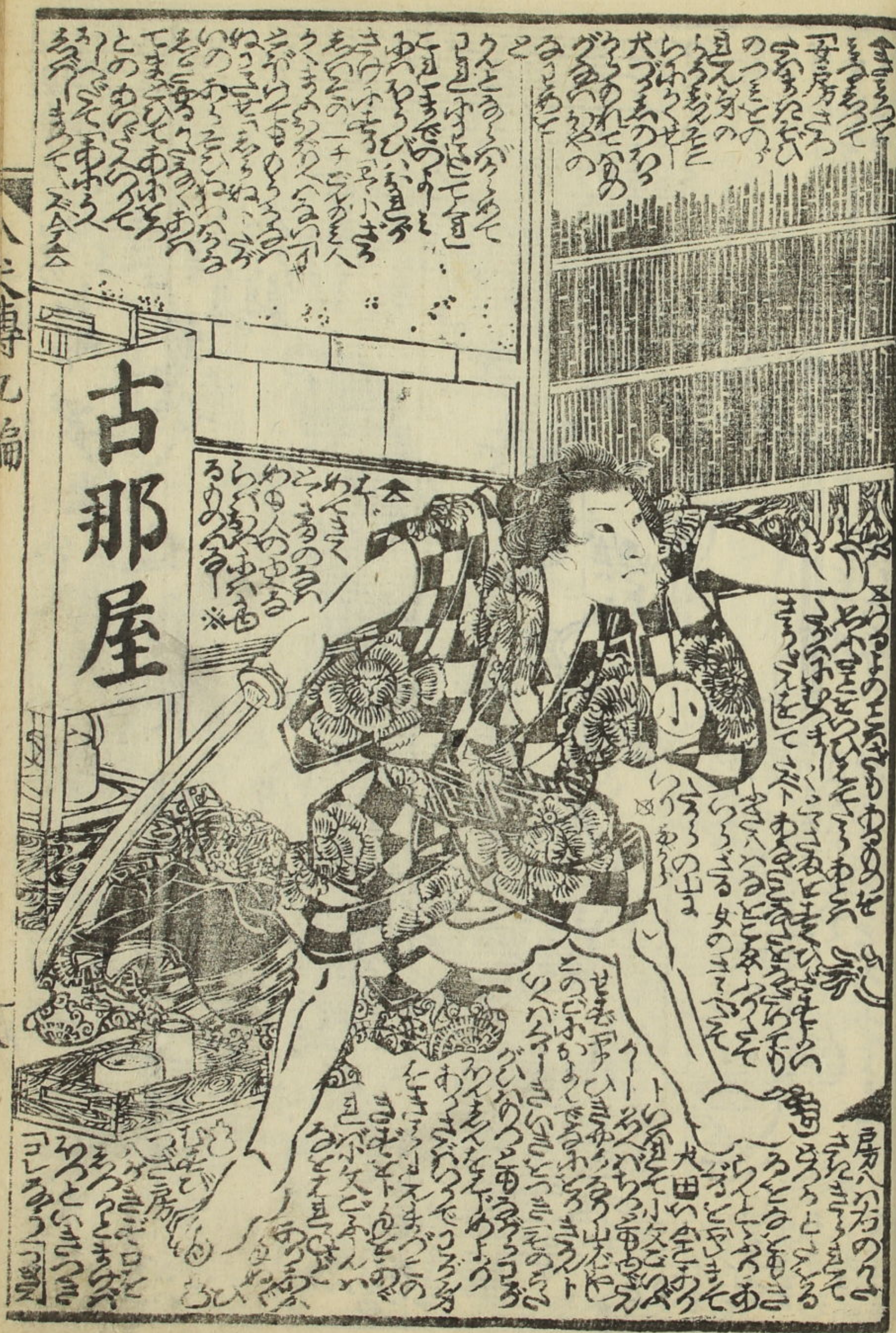
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...
あつちのうらみ...



八世千九郎



五



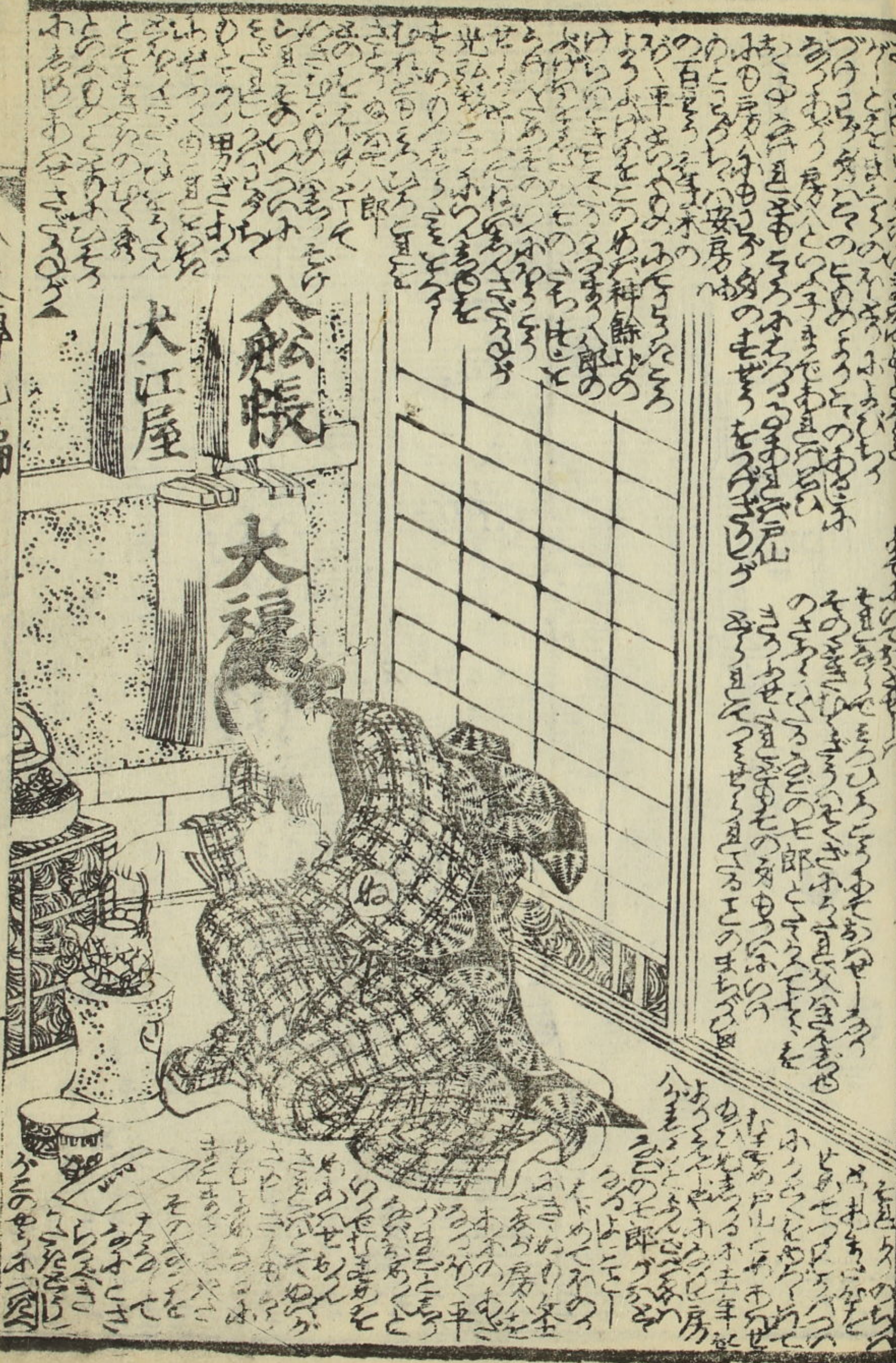
Handwritten text in the upper left corner of the left page, including the characters '古那屋'.



Handwritten text in the upper right corner of the right page.

八代傳九郎

七

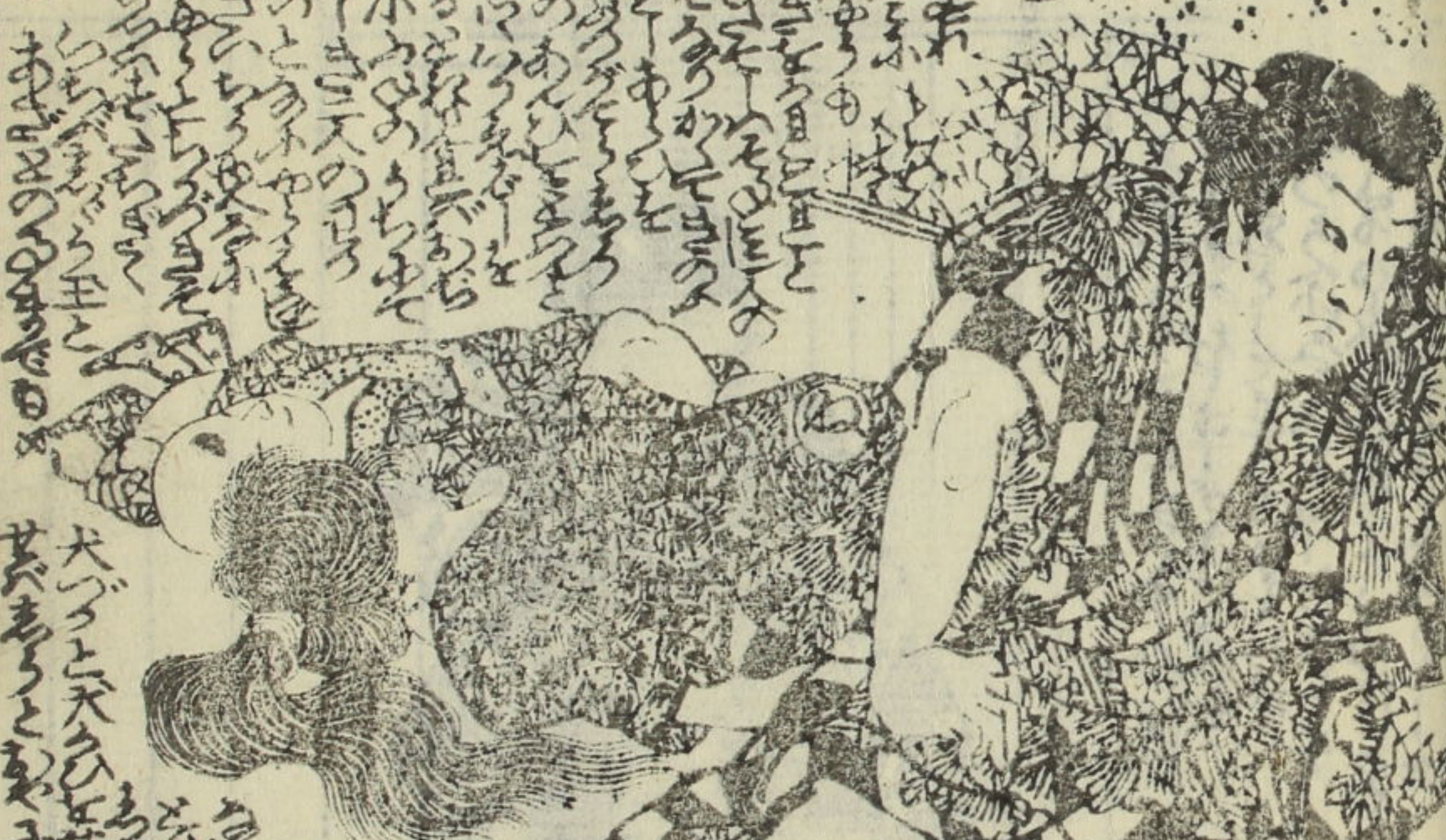


此の世にやむを得ず世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

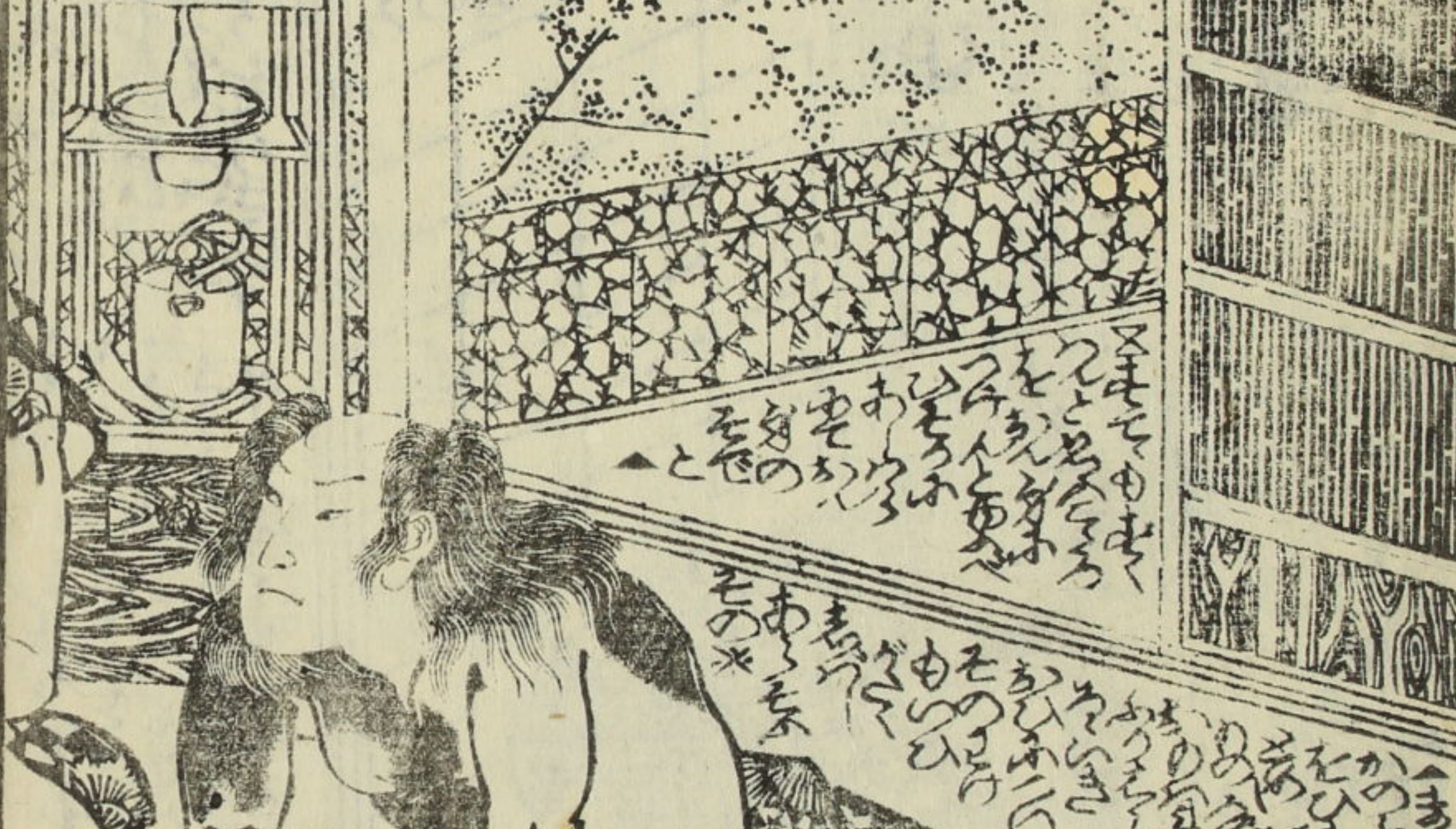


あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

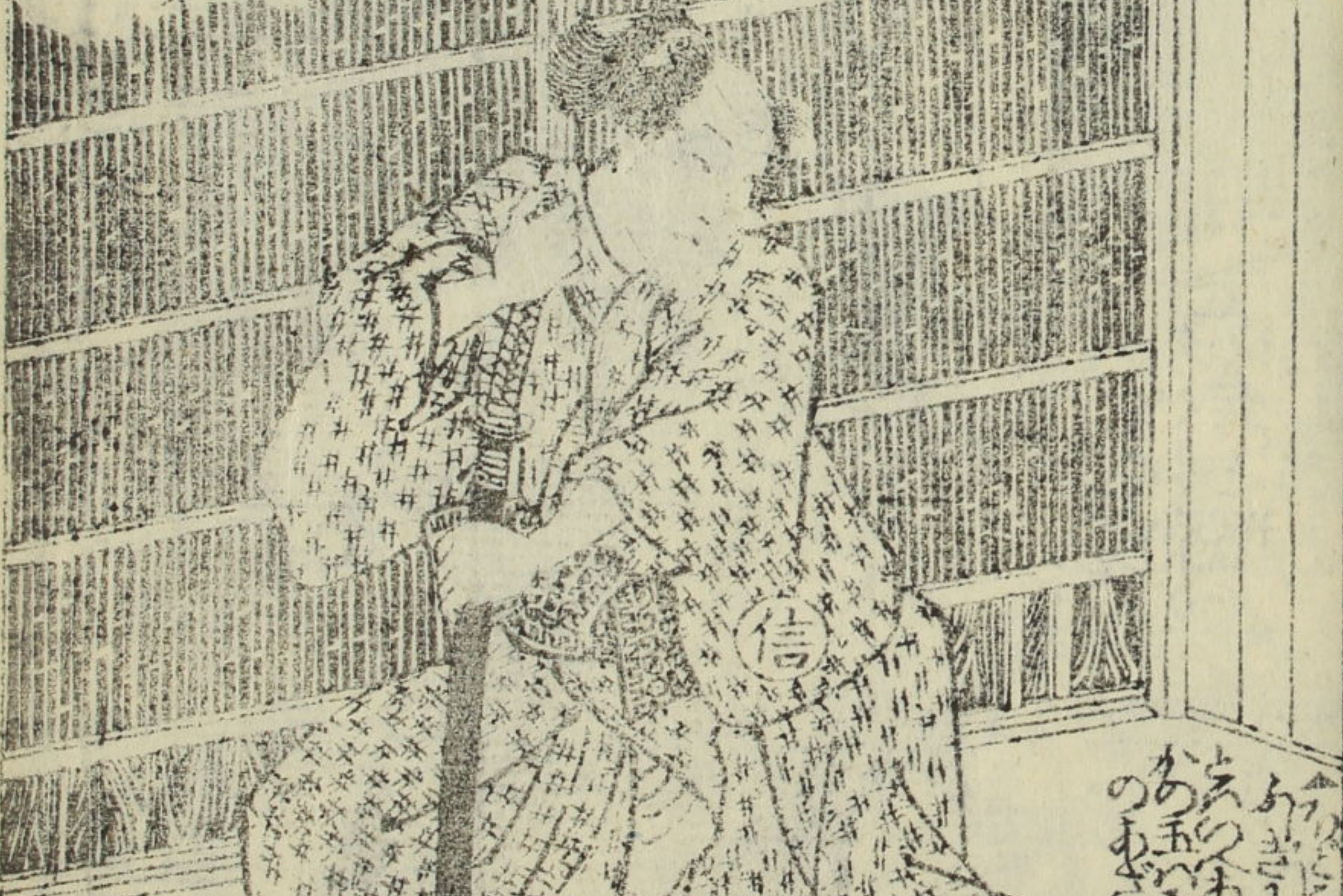
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に

あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に
あはれをいふが世に



二の巻のついでに... 信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに...



信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに...

信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに...

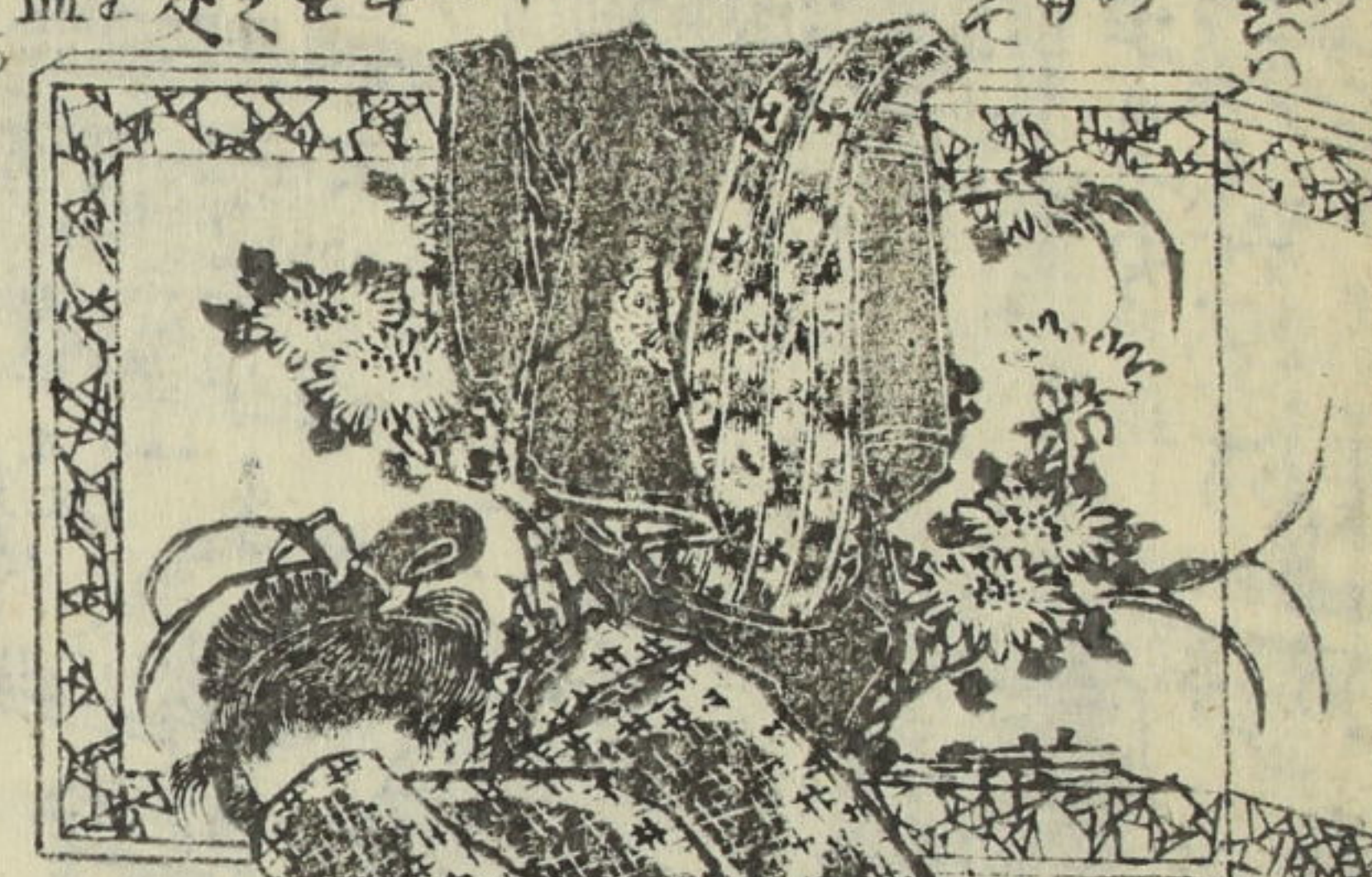


信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに... 信三の巻のついでに...

國芳画



大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...



大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...



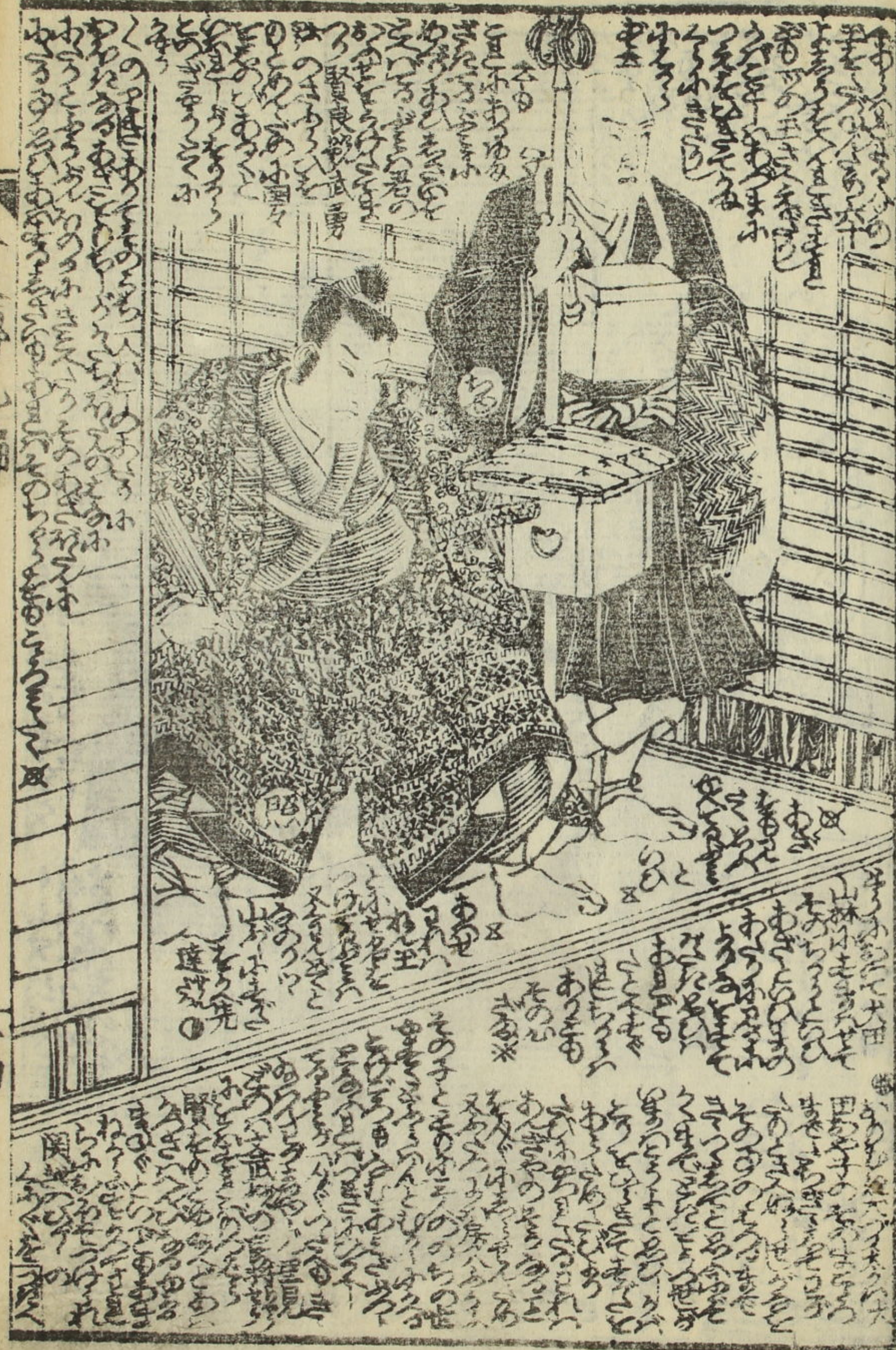
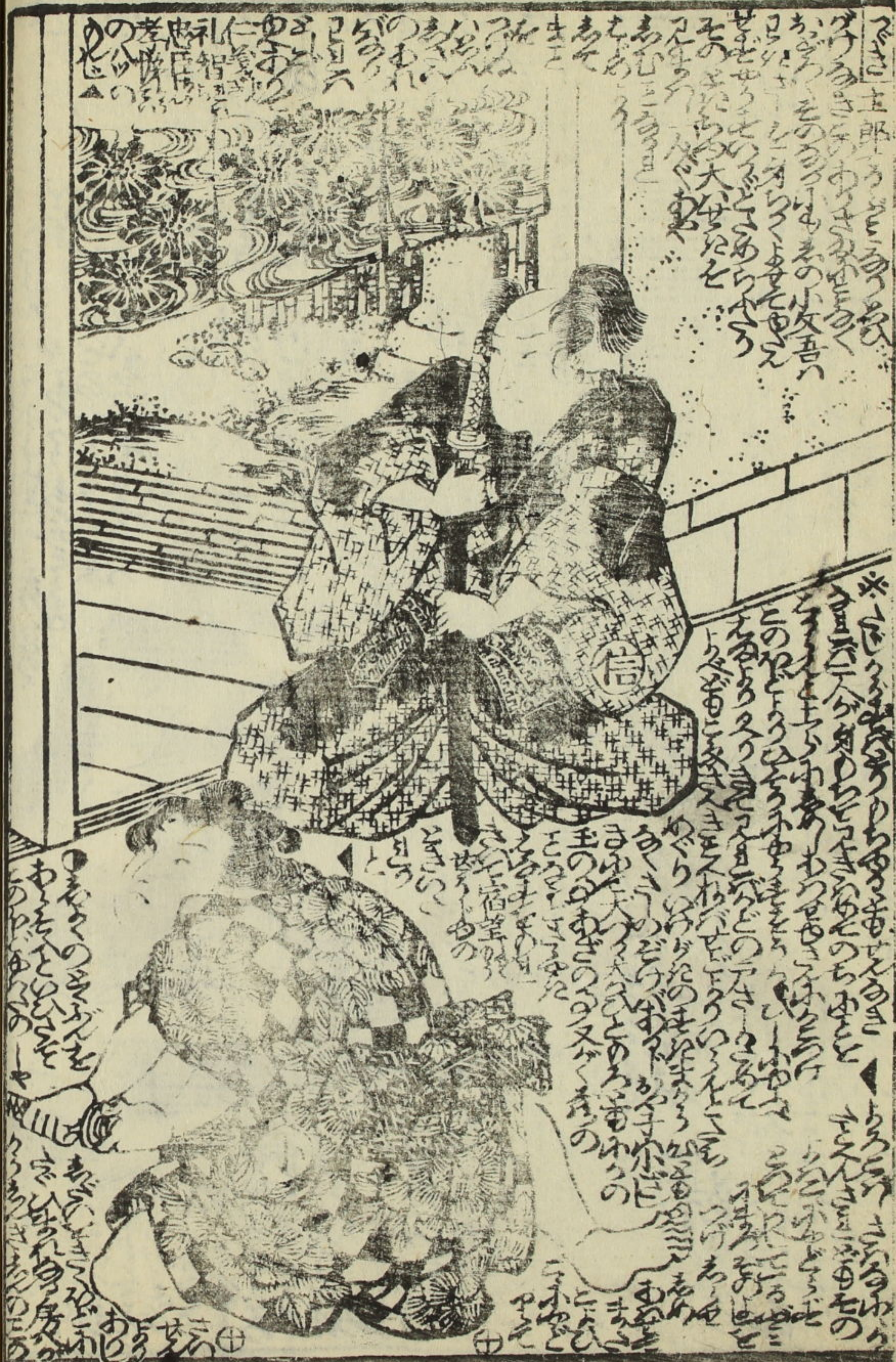
大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...

大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...



大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...

大田の口... 五尺... 大田の口... 五尺...





大傳九編

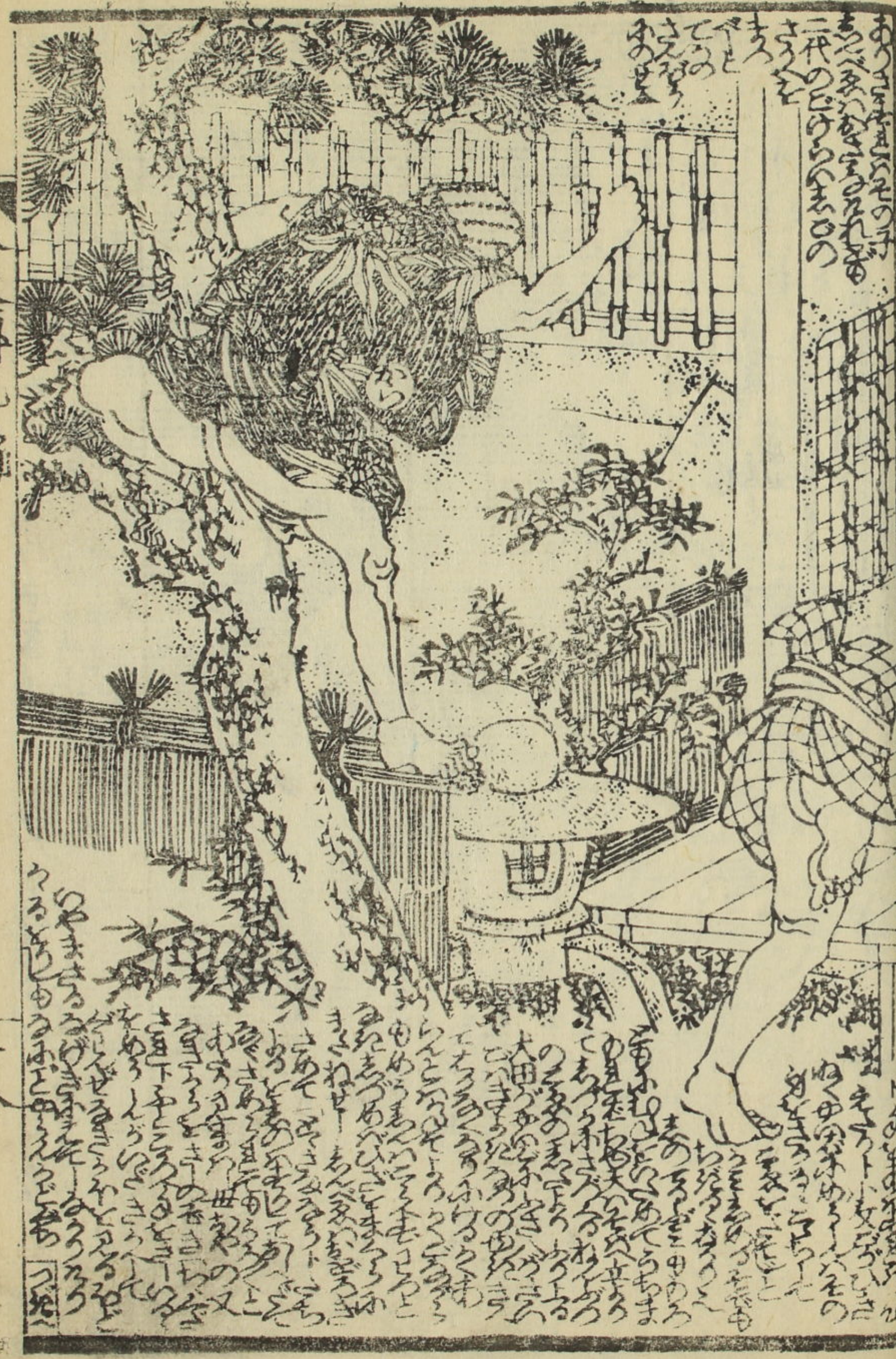
一五



大傳九編

十四

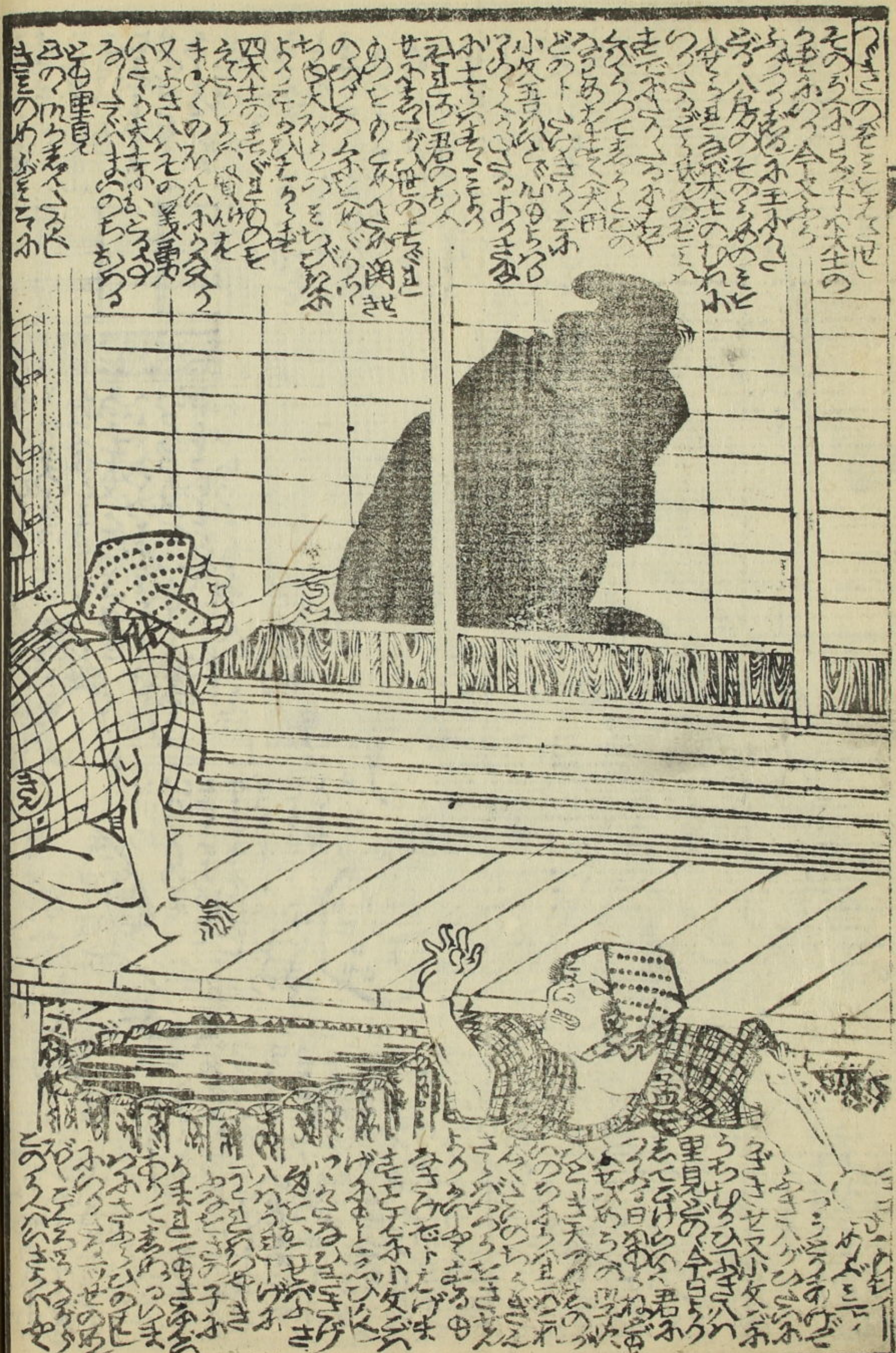
元傳乙編



あつては...
 もの...
 二代...

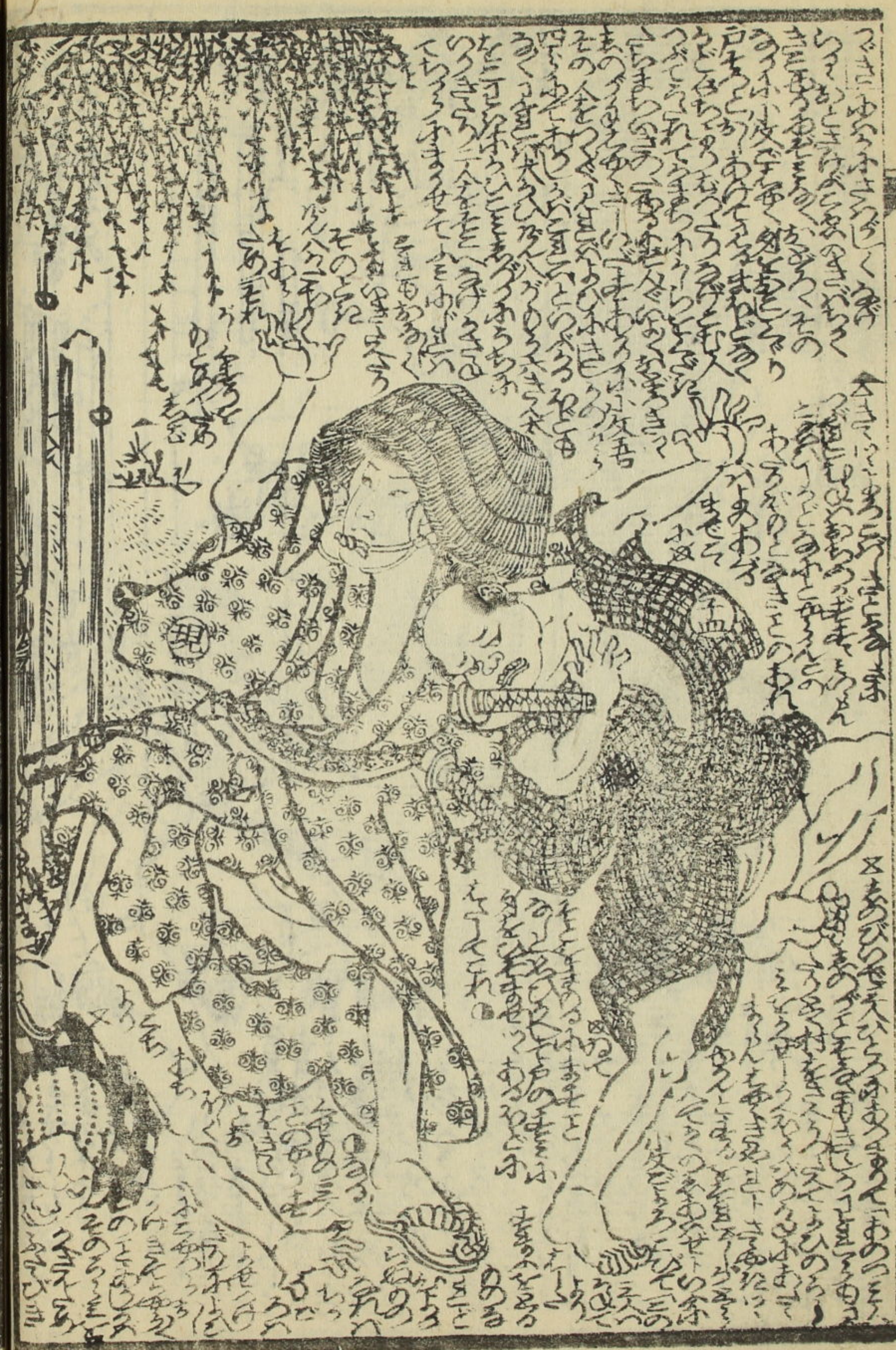
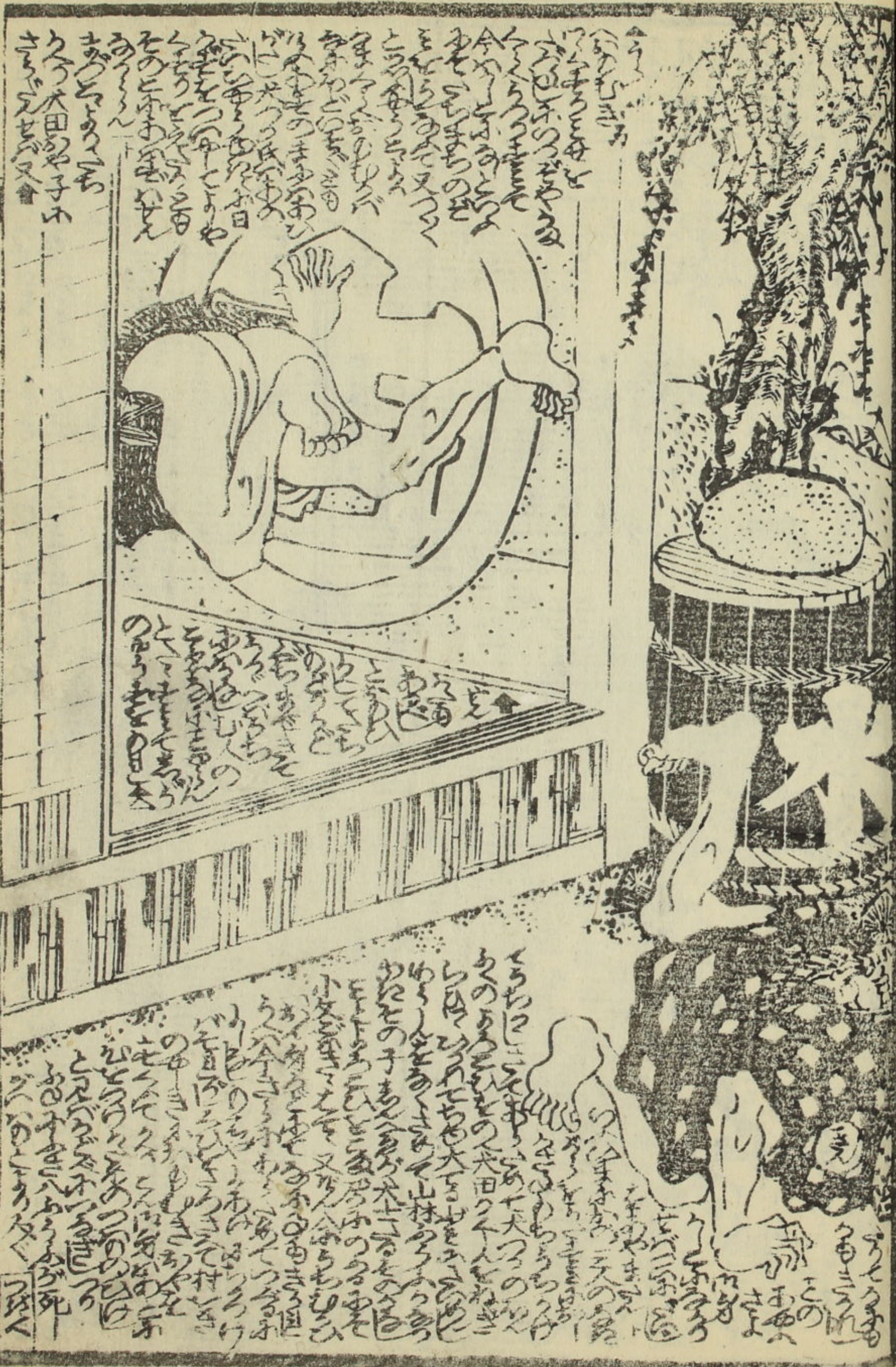
ゆき...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...

大伴九郎

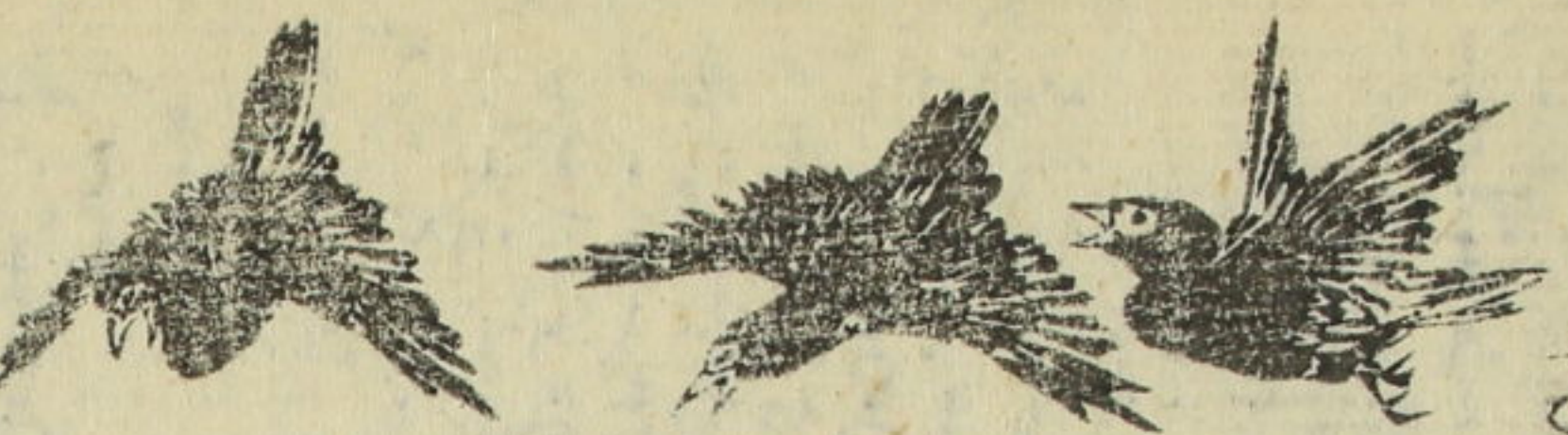


そのうち...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...

おま...
 むす...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...
 おま...
 むす...



其まきるとしるべしは
 こころのあやうきものを
 こころのあやうきものを
 こころのあやうきものを
 こころのあやうきものを



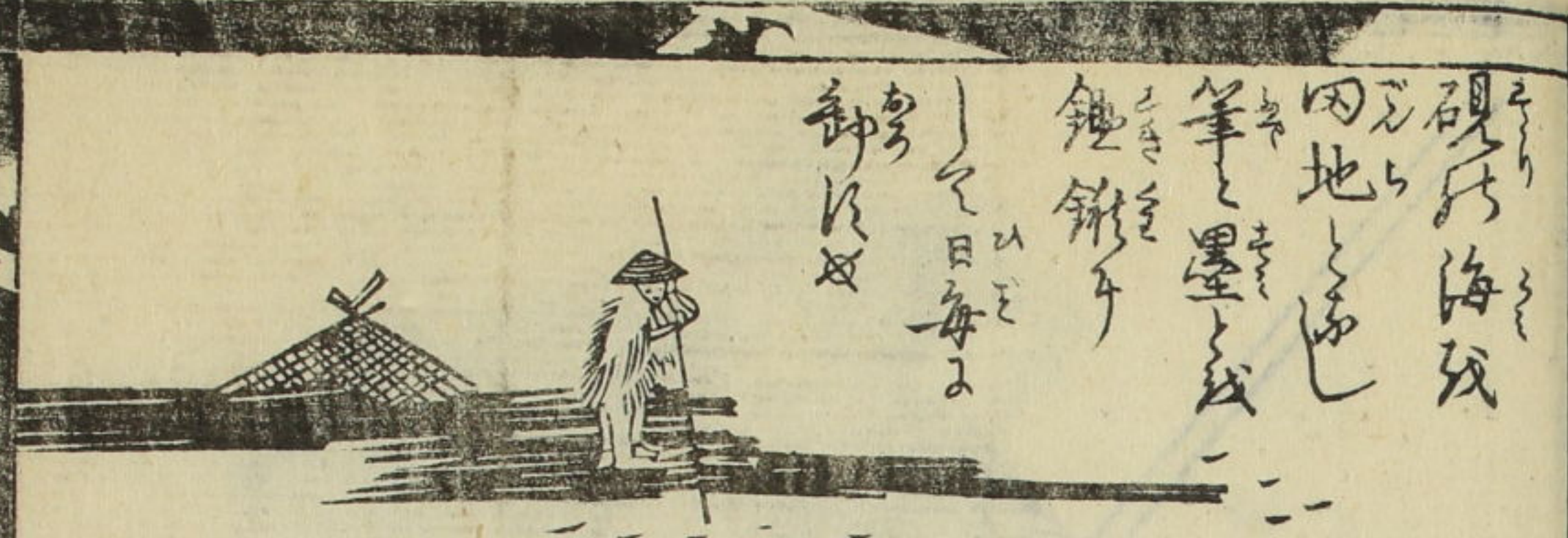
一勇齋國芳画

此の世の...
 此の世の...
 此の世の...

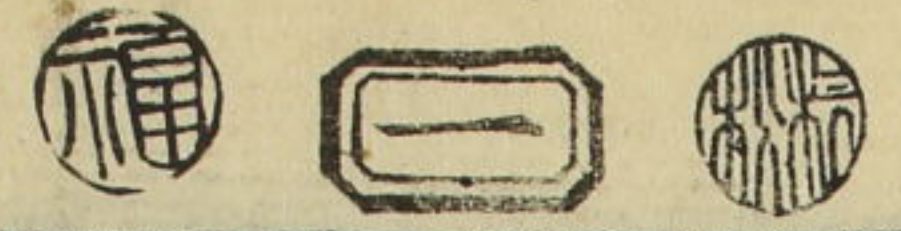
この世の...
 この世の...
 この世の...

大表の...
 大表の...
 大表の...

硯所海双
 田地とゆし
 筆と墨と成
 鍾銘子
 一ヶ月毎日
 卸は



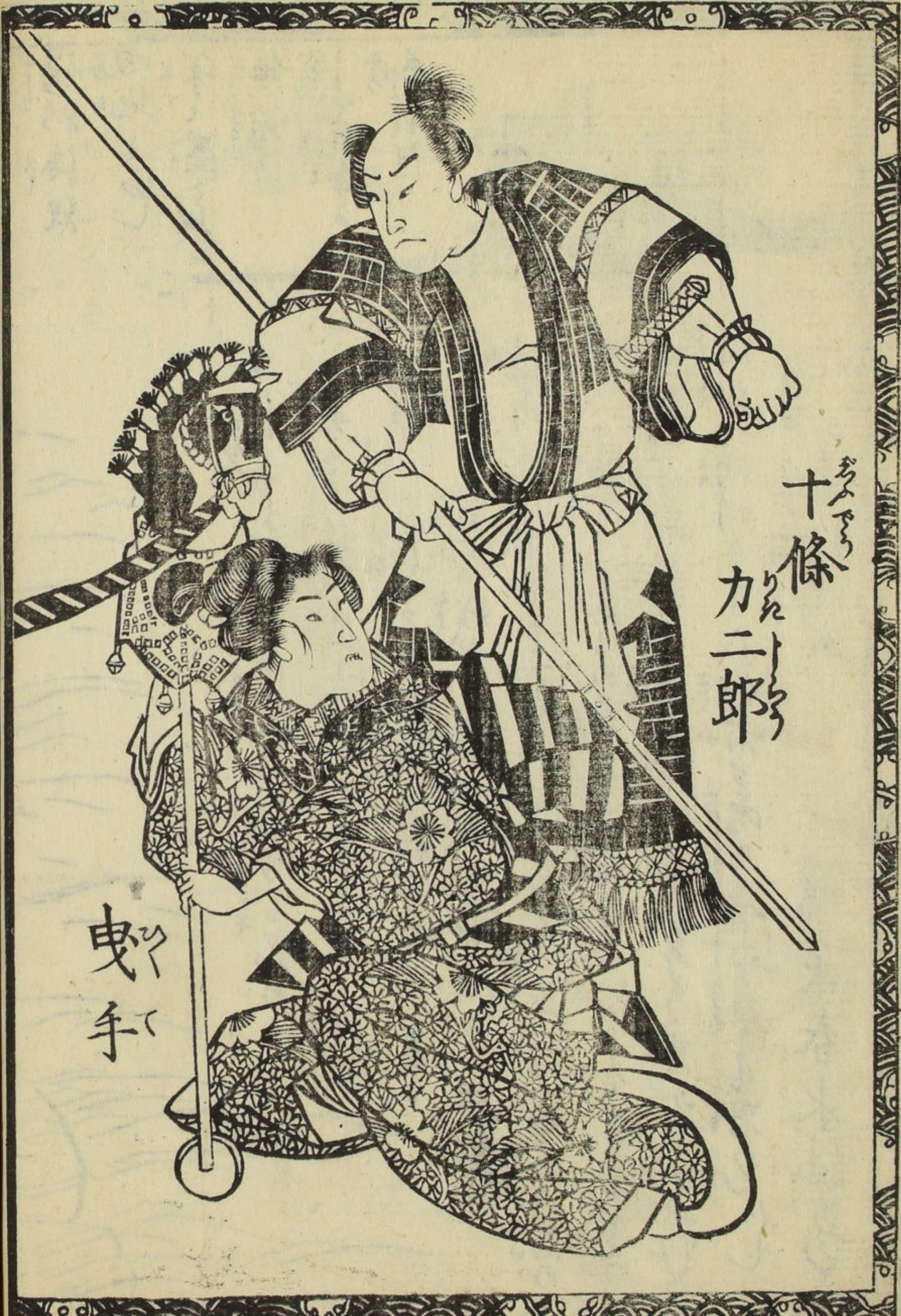
後おも根が 疲脱の 作男吉家の
 善く仕残し 時未進を せうを やる 俊ら
 れを 餅子 治え 酒息を 頼も 青田と あり
 徳り 植見 せよ 言ふ 成案 山子 の ち引り 切れ 山岡の
 畔の 水車 を めわ ぬ 筆を 仮書 書を 綴り 合せ じふ十 海
 びね 一期 榮へ ころハ 赤い くる あり 夏あ ち先 此 車
 編 尾 南 州 へ 行く 残 作者 づ 為 の 骨 正月 と 外 思 い じ
 嘉永三歲
 戊孟春 獲 取
 為、永春水 誌 焉





單節

十條
尺八郎



十條
力二郎

卯手

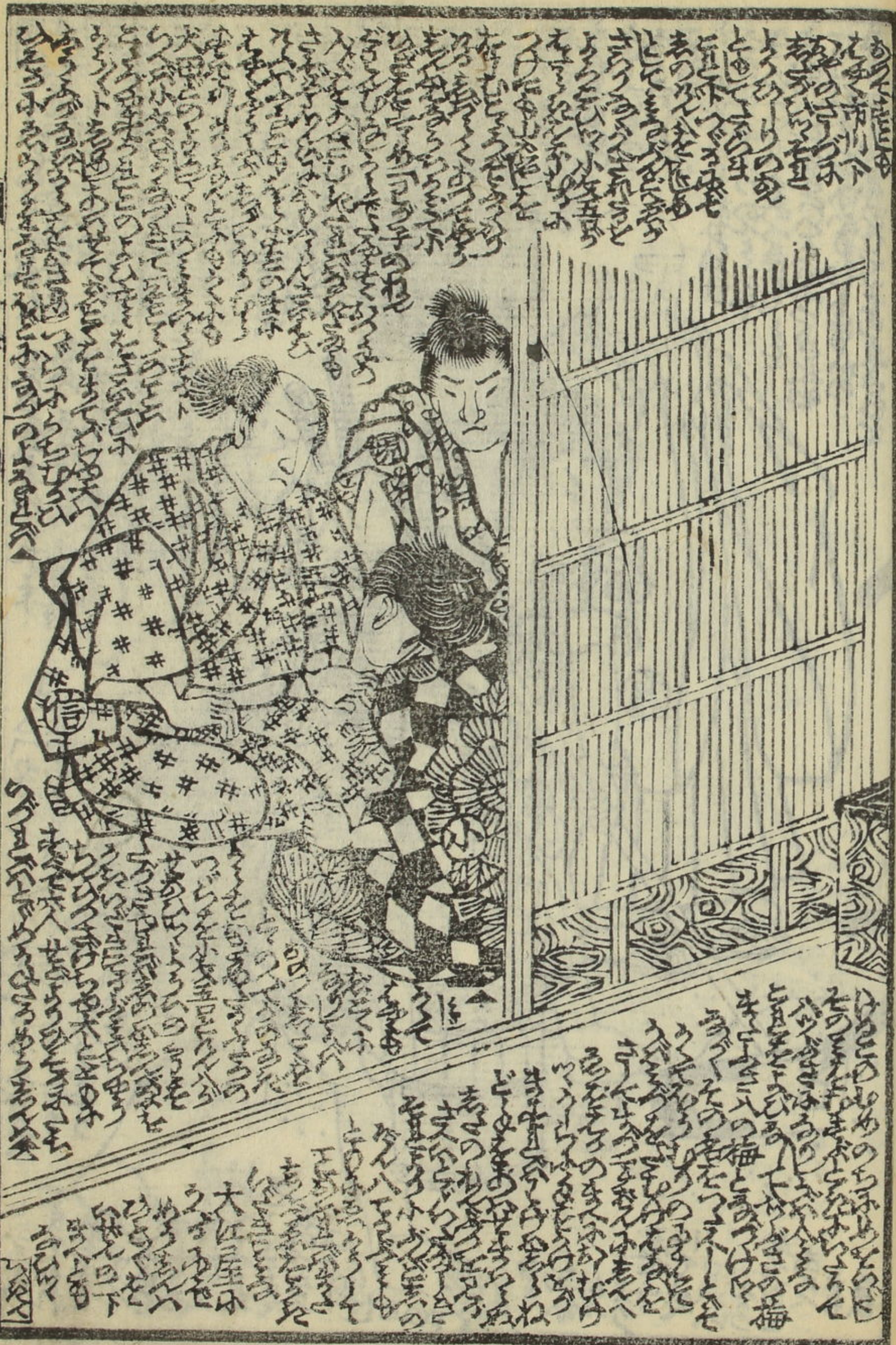


Vertical Japanese text in the upper left corner, likely a title or introductory text for the scene.



Vertical Japanese text in the upper left corner of the right page, continuing the narrative.

Vertical Japanese text in the lower right corner of the right page, providing further details or commentary.





六十一編

五



六十一編

五





Vertical columns of Japanese text on the left side of the top illustration, including characters like 山崎, 山崎, and 山崎.

Vertical columns of Japanese text on the bottom side of the top illustration, including characters like 山崎, 山崎, and 山崎.



Vertical columns of Japanese text on the left side of the bottom illustration, including characters like 山崎, 山崎, and 山崎.

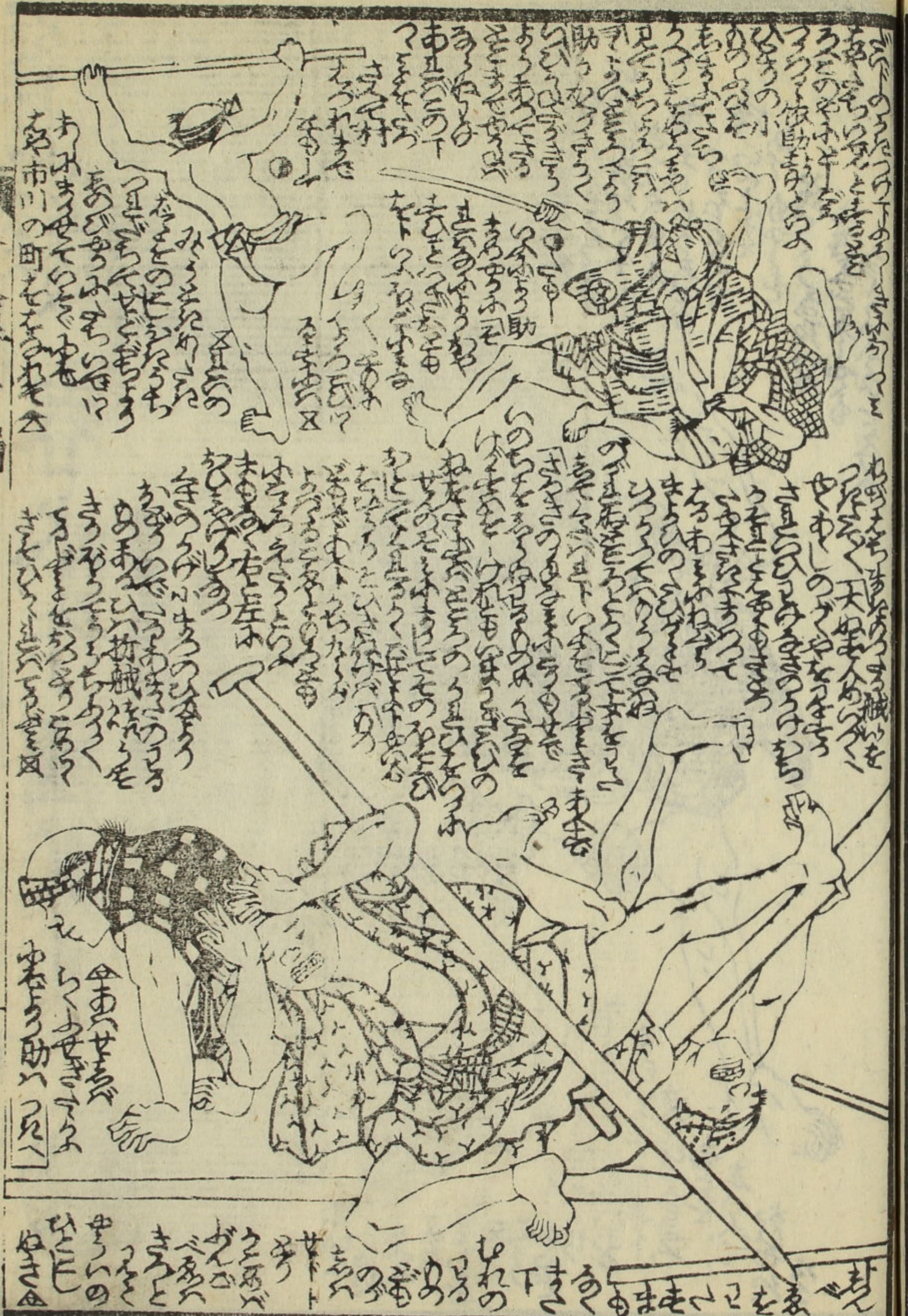
Vertical columns of Japanese text on the right side of the bottom illustration, including characters like 山崎, 山崎, and 山崎.

Vertical columns of Japanese text on the bottom side of the bottom illustration, including characters like 山崎, 山崎, and 山崎.

八代目 上巻

下





市川の町をすわらば

大軍の勢にやぶ

おのゝ



大軍の勢にやぶ

*

おのゝ



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a title '春水作國芳画' on the right side of the page.

春水作國芳画

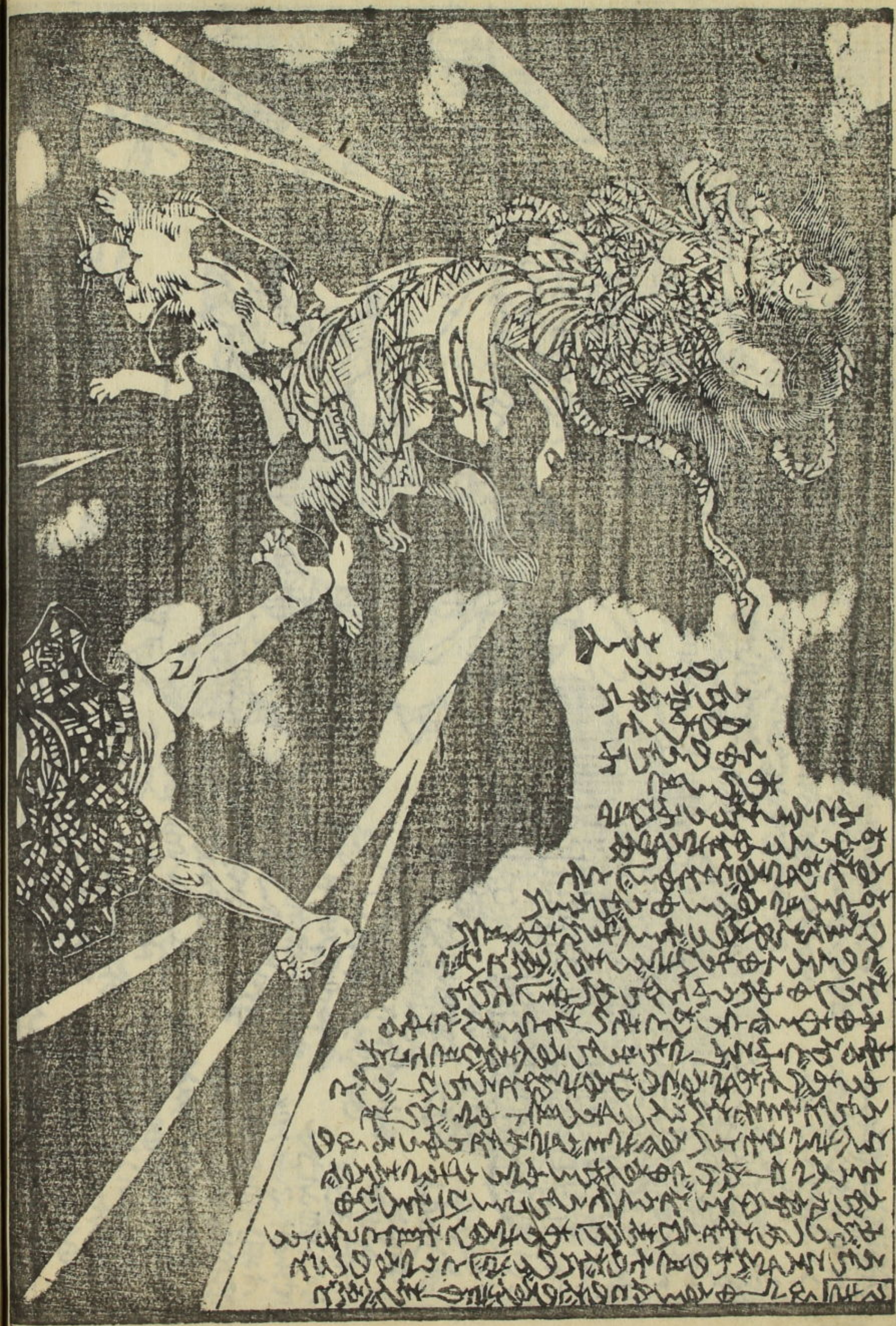
春水作國芳画



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a title '春水作國芳画' on the right side of the page.

春水作國芳画

Additional vertical columns of handwritten Japanese text on the right page, including a title '春水作國芳画'.







一、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、
聞くに、面白き事なり。其の
事、今も、傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

二、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

三、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

四、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。



一、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

二、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

三、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。

四、此の物語は、昔の事なり。今も、
人々の口々に傳へられ、聞くに、
面白き事なり。其の事、今も、
傳へられ、聞くに、面白き事なり。



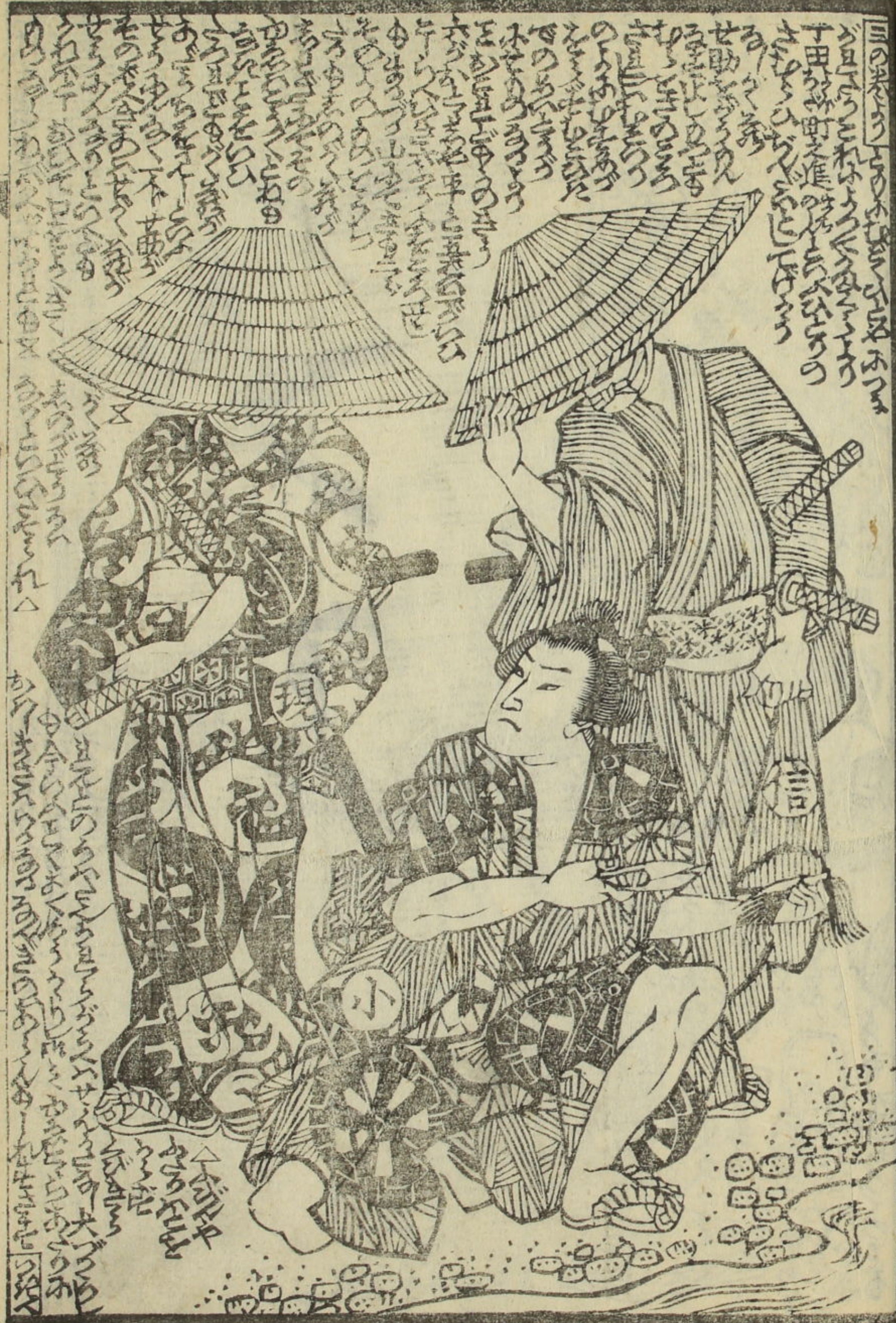
ここから見て...
12年...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...



...
...
...
...
...
...
...
...
...

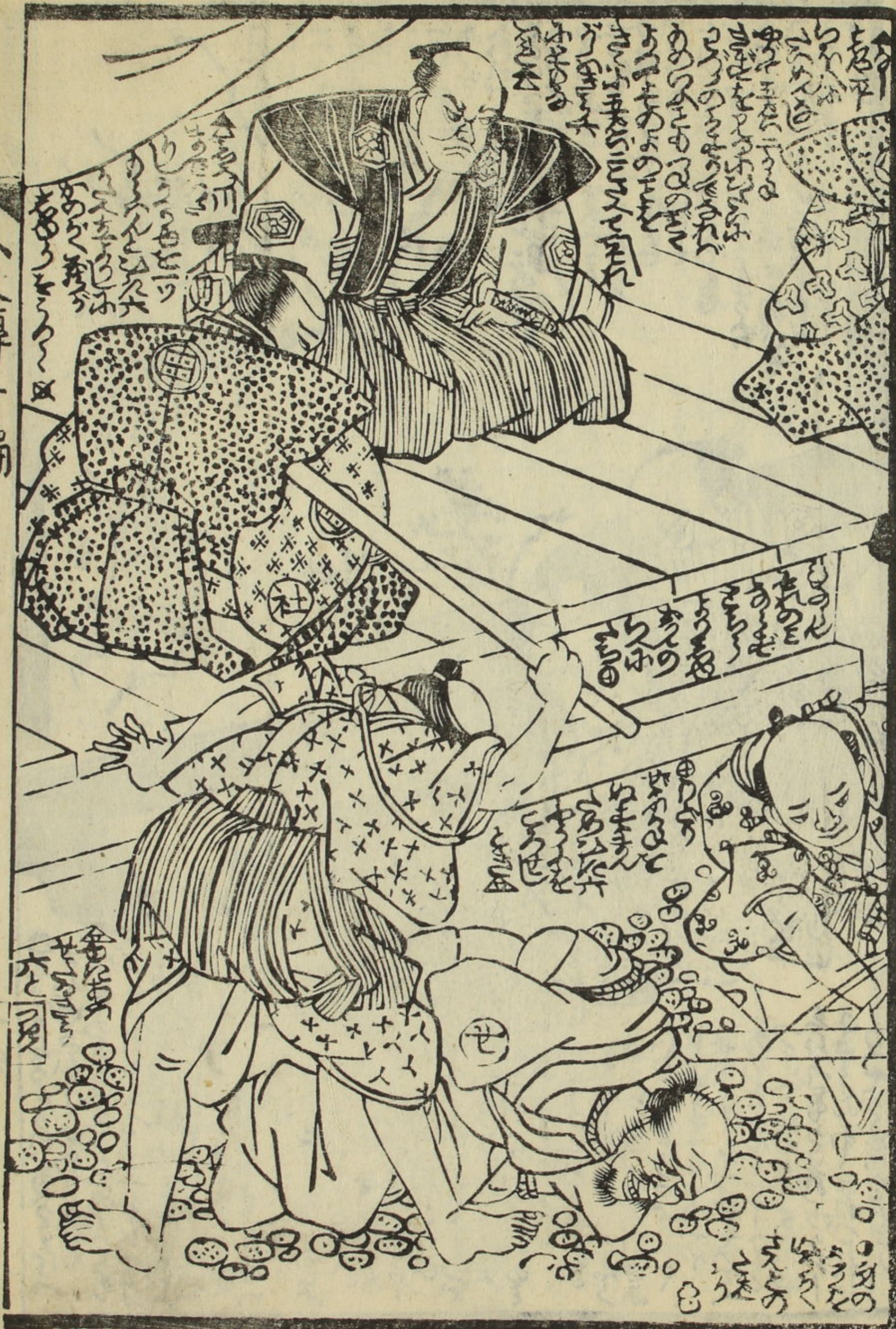
...
...
...
...
...
...
...
...
...



八代傳十郎

十五







此の如きものハ
 人の心を
 動かす事
 能はざるハ
 其の心
 動かざる
 事也

此の如きものハ
 人の心を
 動かす事
 能はざるハ
 其の心
 動かざる
 事也



此の如きものハ
 人の心を
 動かす事
 能はざるハ
 其の心
 動かざる
 事也

此の如きものハ
 人の心を
 動かす事
 能はざるハ
 其の心
 動かざる
 事也

町
 昔

ついでその
ふたりのひまを
めいひつひのころあひか
らふまゝのふりまきゆく
ふたりのふりまきゆくふりま
わく

▲ついで
ふたりのひまを
めいひつひのころあひか
らふまゝのふりまきゆく
ふたりのふりまきゆくふりま
わく

朝 鮮牛肉丸 一色入 百銅
全朱
てんひのぬまのぬまの
せつぬまのぬまのぬまの
ぬまのぬまのぬまのぬまの
下合三味じんぎ
對州やま
三呀 添崎氏



一勇齋國芳画

鳥永春水作

